資料－１－１

第178回女川原子力発電所環境調査測定技術会資料

女川原子力発電所
環境放射能調査結果(案)

令和８年度第２四半期

目　　次

1　環境モニタリングの概要 ---------- 1
（1）調査実施期間 ---------- 1
（2）調査担当機関 ---------- 1
（3）調査項目 ---------- 1

2　環境モニタリングの結果 ---------- 3
（1）原子力発電所からの予期しない放出の監視---------- 3
ア　モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による
空間ガンマ線量率 ---------- 3
イ　海水（放水）中の全ガンマ線計数率 ---------- 3
ウ　ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度---------- 4
（2）周辺環境の保全の確認 ---------- １４
ア　電離箱検出器による空間ガンマ線量率 ---------- １４
イ　放射性物質の降下量 ---------- １４
ウ　環境試料の放射性核種濃度 ---------- １４

資　　料

1　調査地点 ---------- ２９

2　測定方法及び測定機器等 ---------- ３３
（1）測定方法及び測定機器 ---------- ３３
（2）検出下限値、数値及びトレンドグラフの表し方 ---------- ３７

3　測定結果 ---------- ３８
（1）モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率測定結果---------- ３８
（2）海水（放水）中の全ガンマ線計数率測定結果 ---------- ７１
（3）ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度---------- ７４
（4）移動観測車による空間ガンマ線量率測定結果 ---------- ７５
（5）環境試料の核種分析結果 ---------- ７７
ア　ゲルマニウム半導体検出器による分析結果 ---------- ７７
イ　Sr（ストロンチウム）-90の分析結果 ---------- ８３
ウ　H-3（トリチウム）の分析結果 ---------- ８３

4　女川原子力発電所の運転状況 ---------- ８４
（1）１号機の廃止措置の状況 ---------- ８４
（2）２号機の運転状況 ---------- ８４
（3）３号機の運転状況 ---------- ８５
（4）放射性廃棄物の管理状況 ---------- ８６
（5）モニタリングポスト測定結果 ---------- ８７

1　環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、令和８年度第２四半期に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

（１）調査実施期間

令和８年７月から令和８年９月まで

（２）調査担当機関

	調査担当機関
宮　城　県	環境放射線監視センター
東北電力㈱	女川原子力発電所

（３）調査項目

東北電力㈱女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺１１か所に設置したモニタリングステーションにおいて空間ガンマ線量率を、同発電所放水口付近３か所に設置した放水口モニターにより海水(放水)中の全ガンマ線計数率を、周辺２か所に設置したダストモニタにより大気中の放射性物質の濃度を、それぞれ連続で測定した。

また、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、評価にあたっては、原則として原子力発電所から周辺環境へ放出されるおそれのある核種のうち女川原子力発電所環境放射能測定基本計画における環境放射能評価方法において規定する人工放射性核種(以下「対象核種」という。)を対象として行う。

表－１に令和８年度第２四半期の調査実績を示す。

表－１　令和８年度第２四半期の調査実績[*1]

調査対象	検出器または試料名			宮城県		東北電力		合計	
				地点数	測定頻度または試料数	地点数	測定頻度または試料数	地点数	測定頻度または試料数
空間ガンマ線	線量率	モニタリングステーション(ＭＳ)	ＮａＩ	７	連続	４	連続	１１	連続
			電離箱	７	連続	４	連続	１１	連続
		広域ＭＳ	電離箱	１０	連続			１０	連続
		移動観測車	ＮａＩ	２４	１回	１７	１回	４１	各１回
海水（放水）中の全ガンマ線計数率			ＮａＩ			３	連続	３	連続
大気中の放射性物質	全アルファ放射能濃度		ＺｎＳ	２	連続			２	連続
	全ベータ放射能濃度		プラスチック						
降下物			月間	２	６	２	６	４	１２
			四半期間	３	３	２	２	５	５
環境放射能	陸上試料	農産物							
		陸水		２	２	１	１	３	３
		陸土							
		浮遊じん		２	６	４	８	６	１４
		指標植物		２	２	２	２	４	４
	海洋試料	魚介類		１	１	２	２	３	３
		海藻							
		海水(共沈法)				２	２	２	２
		海水(迅速法)[*2]		１	２	（１）	１	１（１）	３
		海底土				２	２	２	２
		指標海産物(灰化法)		３	３	４	４	７	７
		指標海産物(迅速法)[*2]		（３）	３	（３）	３	（６）	６
降下物及び環境試料数合計				１６	２８	２１	３３	３７	６１

*1　対照地点を含む。
*2　共沈法または灰化法に合わせて実施している場合の地点数はカッコ書きとし、合計に含めない。

２　環境モニタリングの結果

本期間中の環境モニタリングの結果、周辺１１か所に設置したモニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率、発電所放水口付近３か所に設置した放水口モニターによる海水（放水）中の全ガンマ線計数率及び周辺２か所に設置したダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度において、異常な値は観測されなかった。

女川原子力発電所周辺地域における降下物からは、対象核種のうちCs（セシウム）-137が、環境試料からはCs-137及びSr（ストロンチウム）-90が検出されたが、他の対象核種については検出されなかった。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は東京電力㈱福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）と過去の核実験の影響と考えられた。

（１）原子力発電所からの予期しない放出の監視

ア　モニタリングステーションにおけるNaI(Ｔｌ)検出器による空間ガンマ線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺１１か所のモニタリングステーションで、NaI(Ｔｌ)検出器による空間ガンマ線量率を連続で測定した。その結果を図－２－１から図－２－１１に示す。

現在推移している線量率には、福島第一原発事故により地表面等に沈着した人工放射性核種の影響が認められる。

なお、一時的な線量率の上昇が観測されているが、これは主に降水による天然放射性核種の降下の影響と考えられた。また、全局で見られる非降水時の緩やかな線量率の上昇（例えば、鮫浦局の８月１５日から８月２８日など）は、モニタリングステーション周辺の土壌水分の減少により、遮へい効果が減少し、土壌中の天然放射性核種からのガンマ線の寄与分が増加したものと考えられた。以上を踏まえ、女川原子力発電所に起因する異常な線量率の上昇は認められなかった。

イ　海水（放水）中の全ガンマ線計数率

放水口付近の３か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を図－２－１２から図－２－１５に示す。

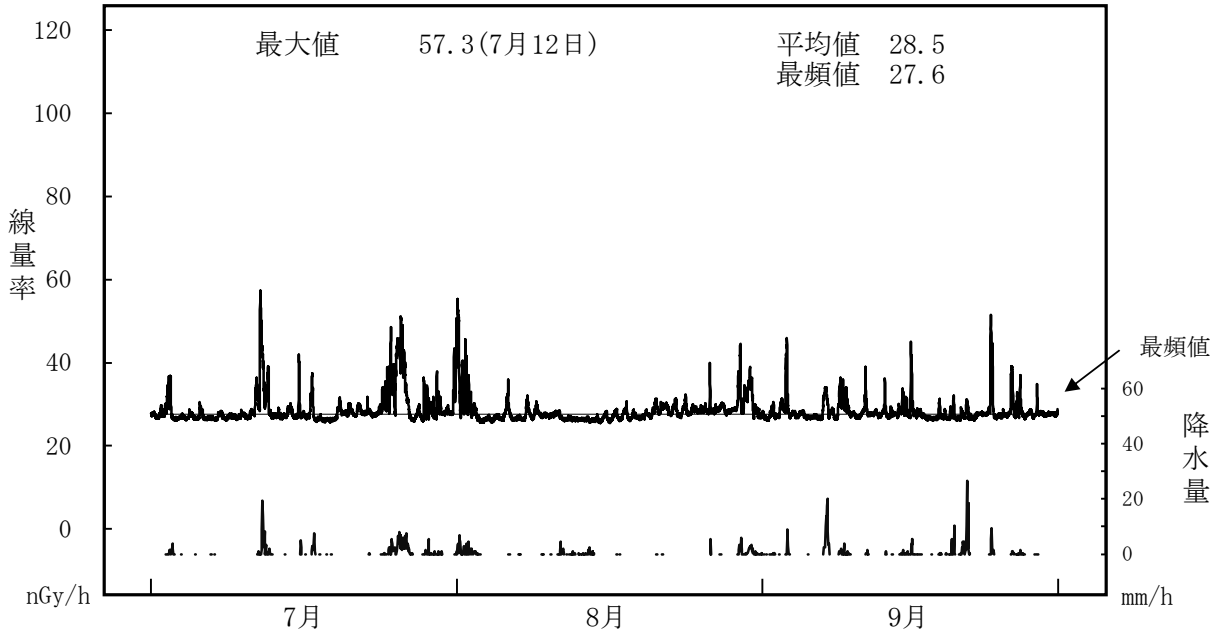
海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は、降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な計数率の上昇は認められなかった。

ウ　ダストモニタによる大気中の放射性物質の濃度

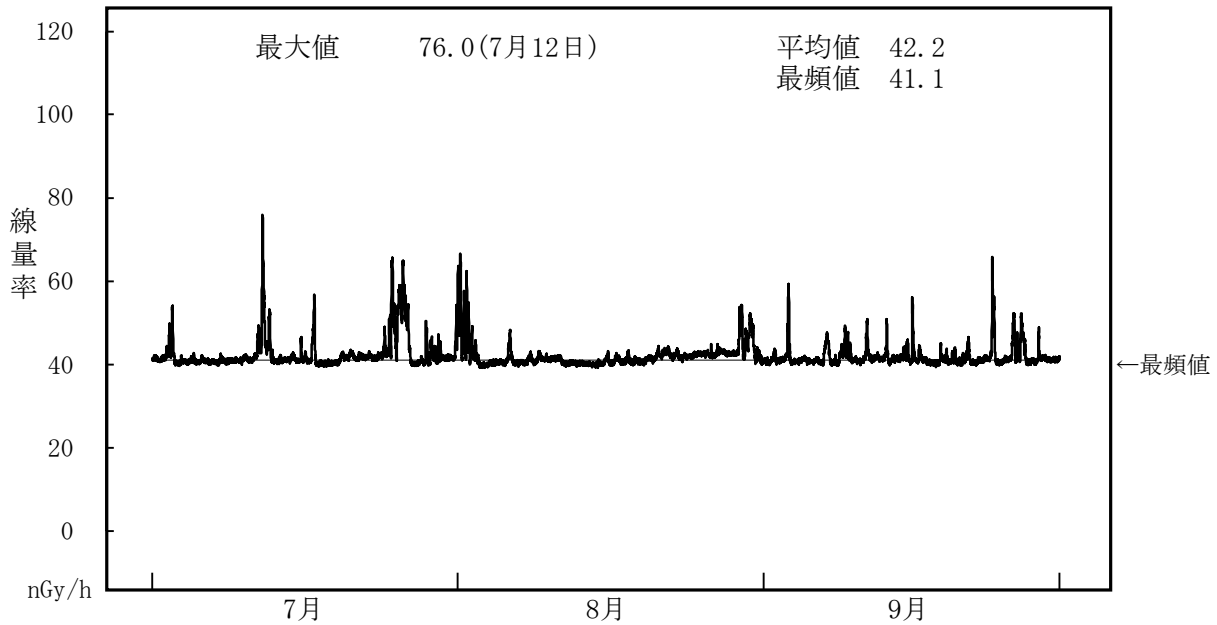
原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺２か所のモニタリングステーションに設置したダストモニタにより、大気浮遊じんを連続で採取及び測定した。その結果を図－２－１６から図－２－１７に示す。

全ベータ放射能濃度の変動は、全ベータ／全アルファ放射能濃度比に大きな変動が見られなかったことから、大気中の天然放射性核種の濃度の変動によるものと考えられ、女川原子力発電所に起因する異常な上昇は認められなかった。

なお、全ベータ及び全アルファ放射能濃度がいずれも低い場合、わずかな濃度の変動によって濃度比が上昇する場合がある。今回観測された一時的な濃度比の上昇は、このことに起因するものと考えられる。

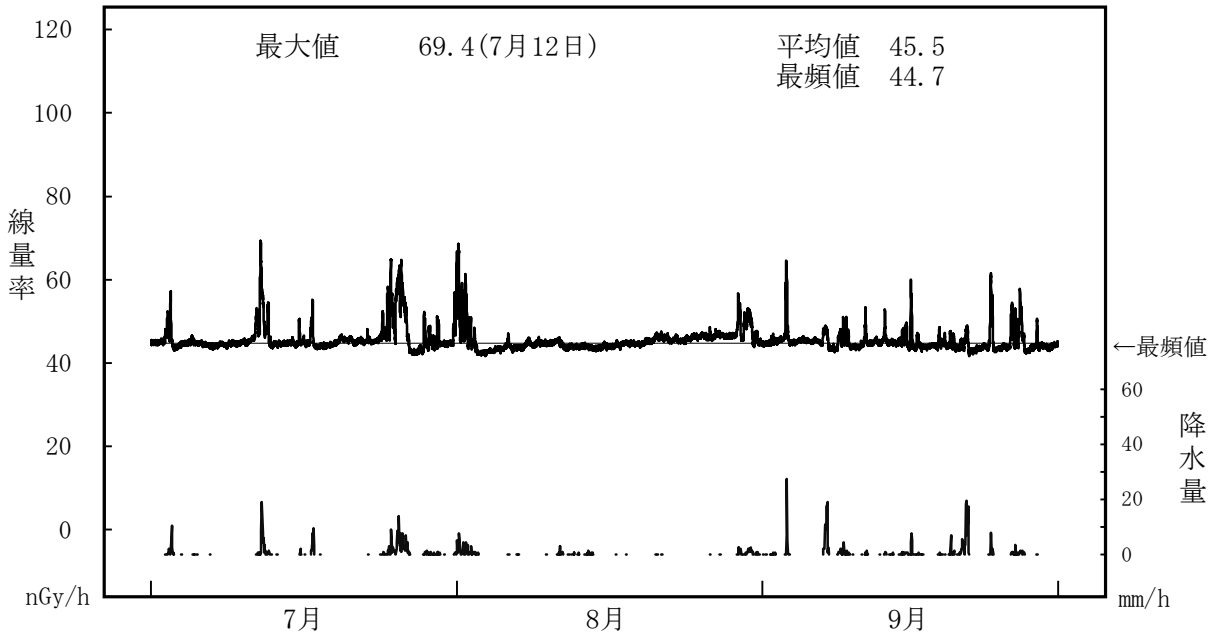


図－２－１ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（女川局）

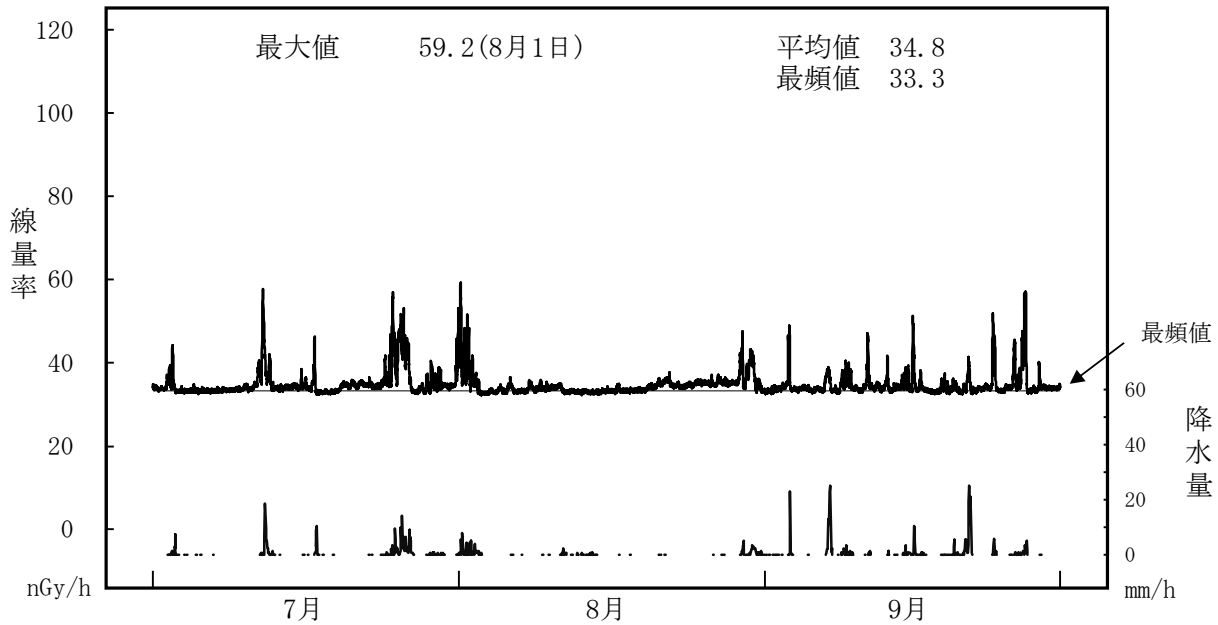


図－２－２ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（飯子浜局）

令和8年度

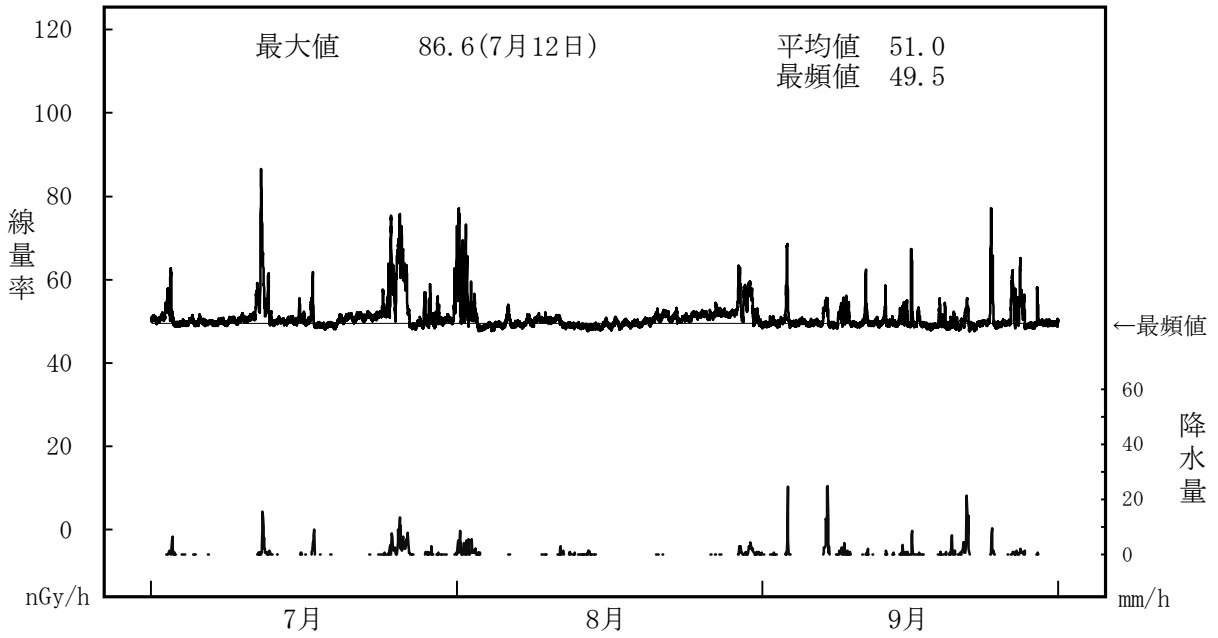


図－２－３ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（小屋取局）

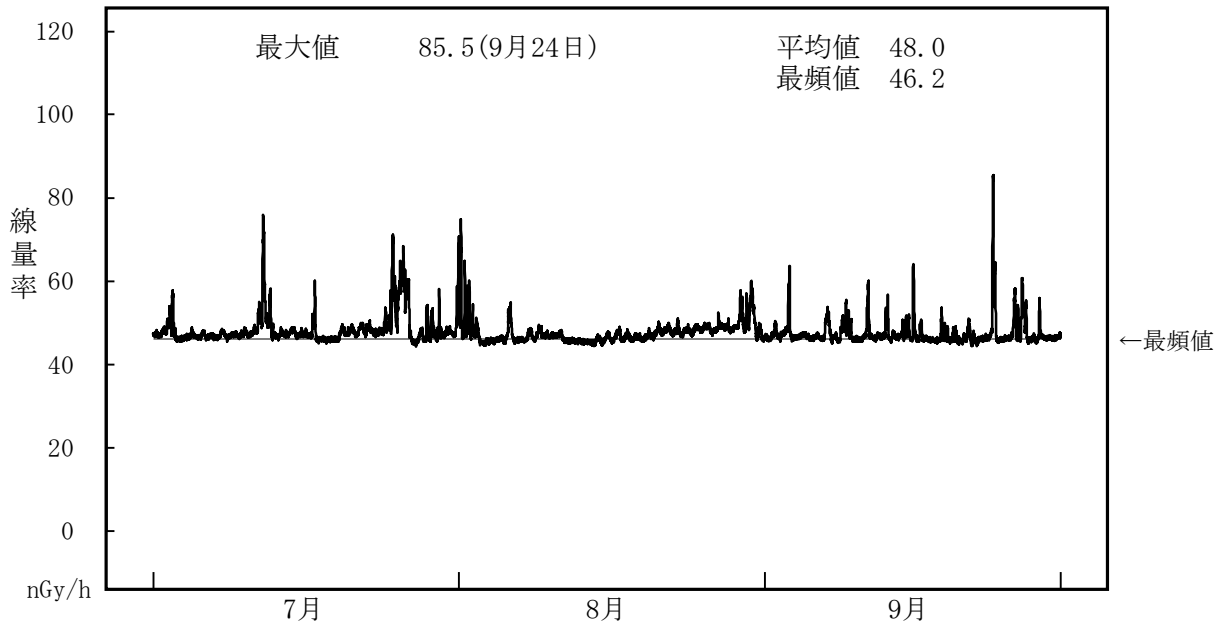


図－２－４ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（寄磯局）

令和8年度

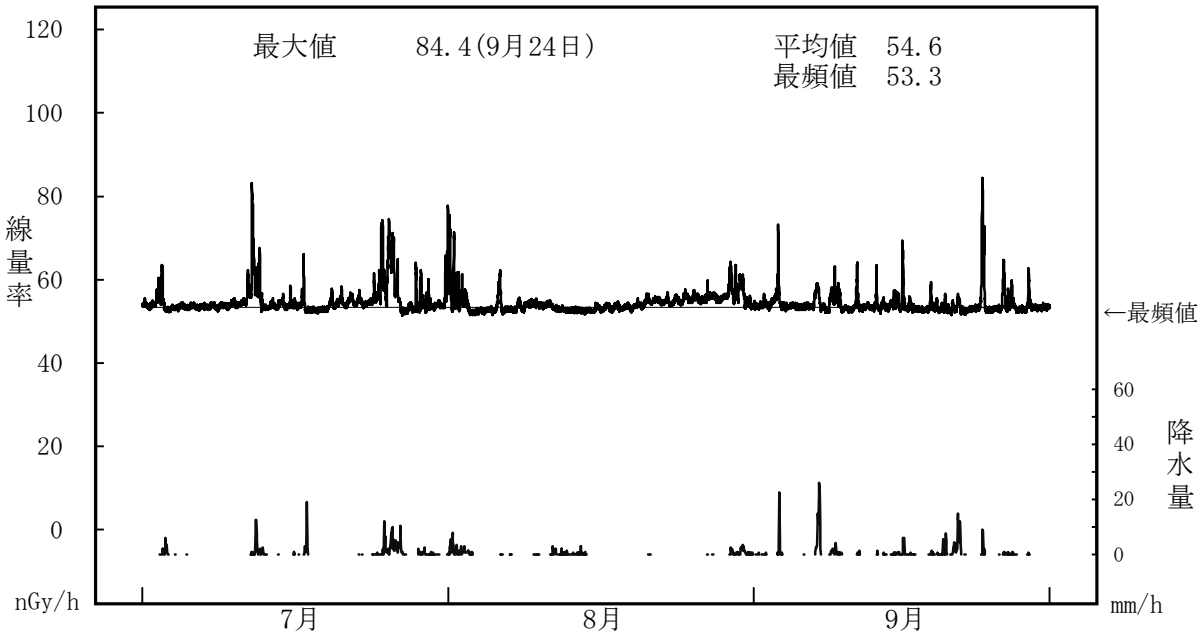


図－２－５ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（鮫浦局）



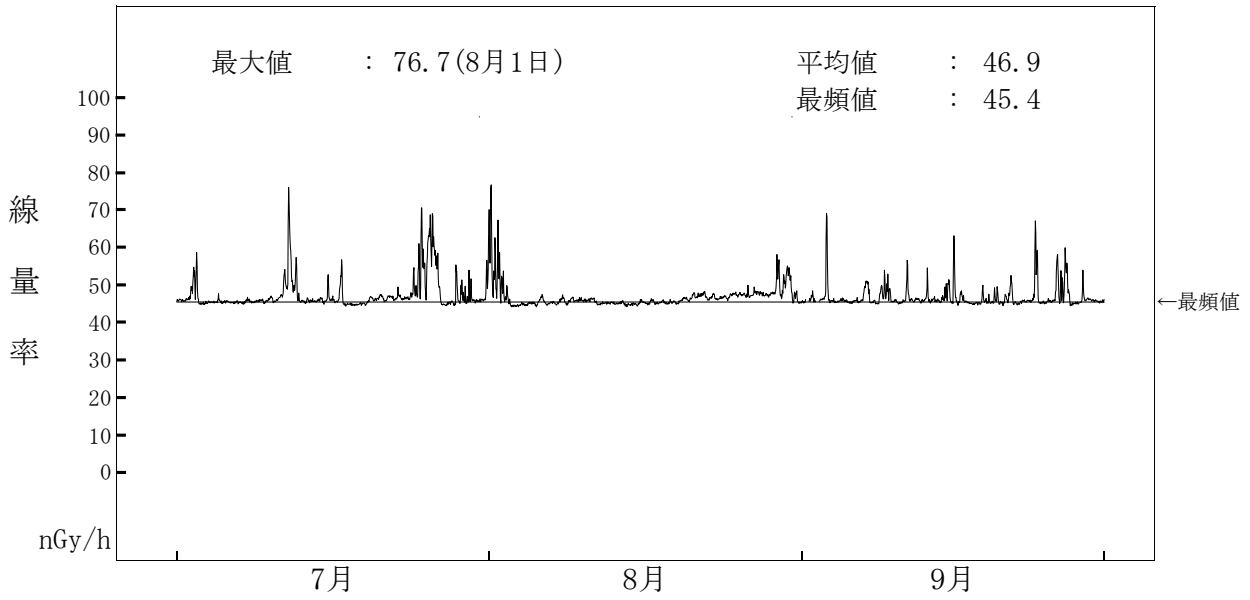
図－２－６ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（谷川局）

令和8年度



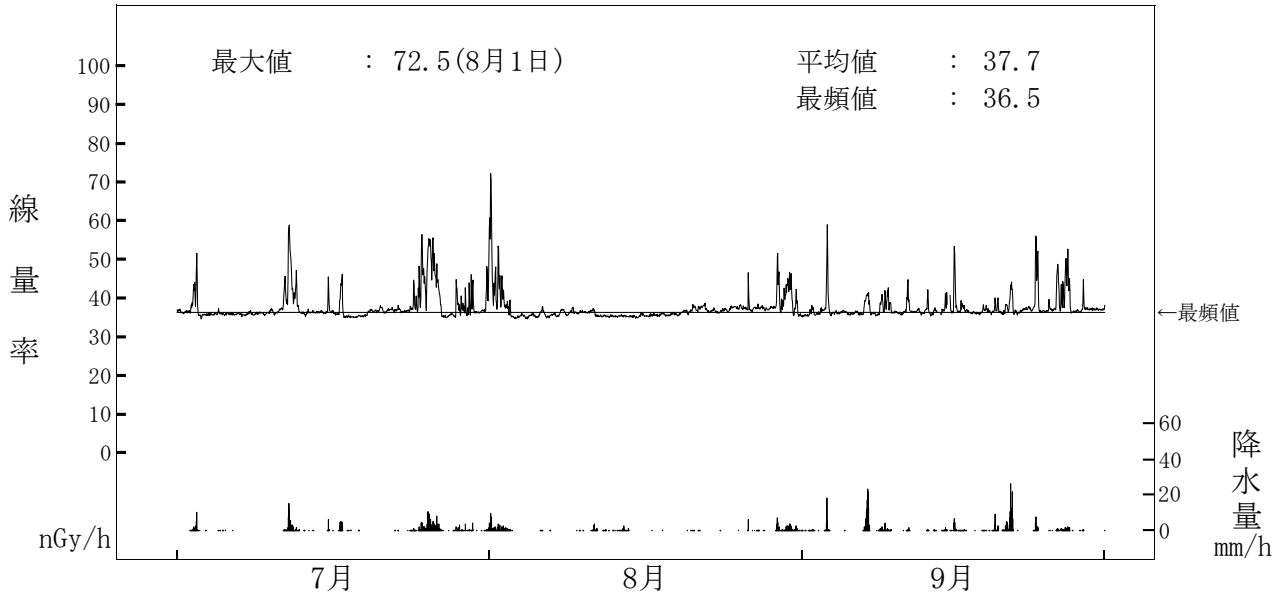
図－２－７ NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（荻浜局）

令和8年度



図－２－８　NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（塚浜局）

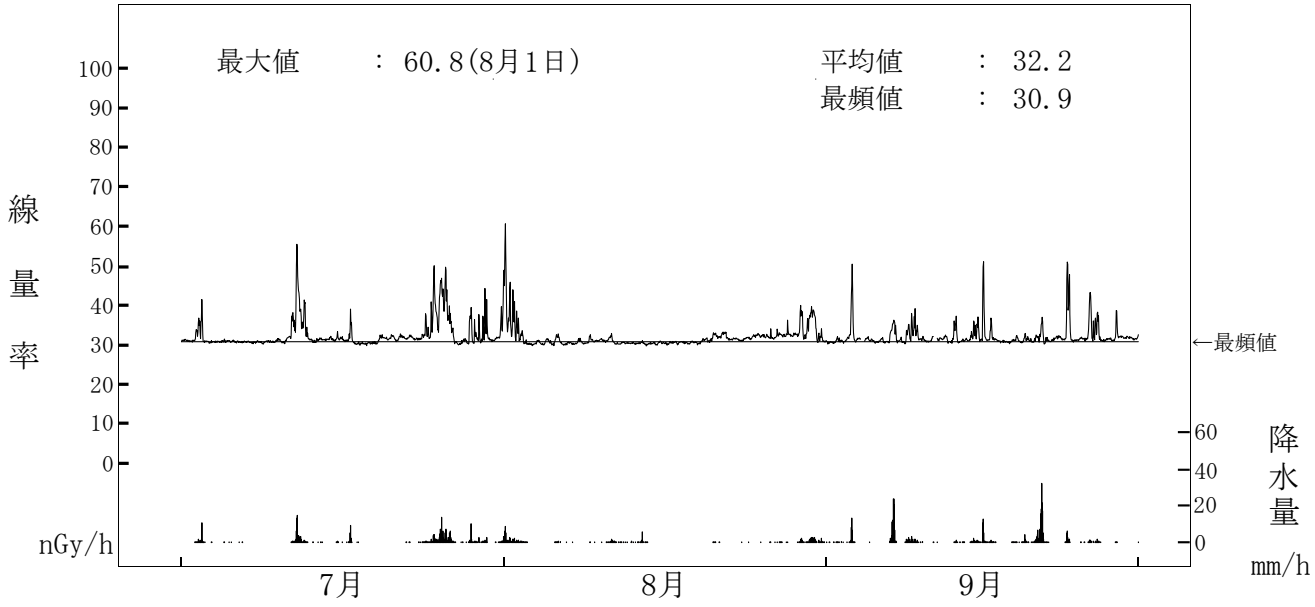
（注）９月１日及び９月２日の欠測は、定期点検によるもの。



図－２－９　NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（寺間局）

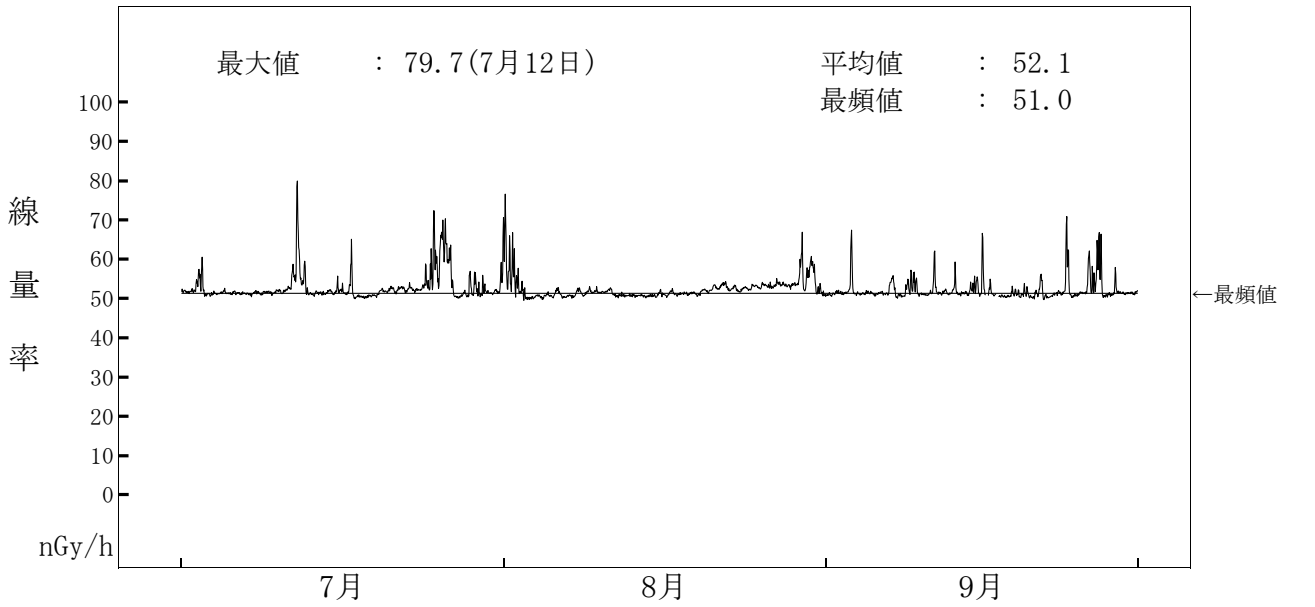
（注）９月１４日及び９月１５日の欠測は、定期点検によるもの。

令和8年度



図－２－１０　NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（江島局）

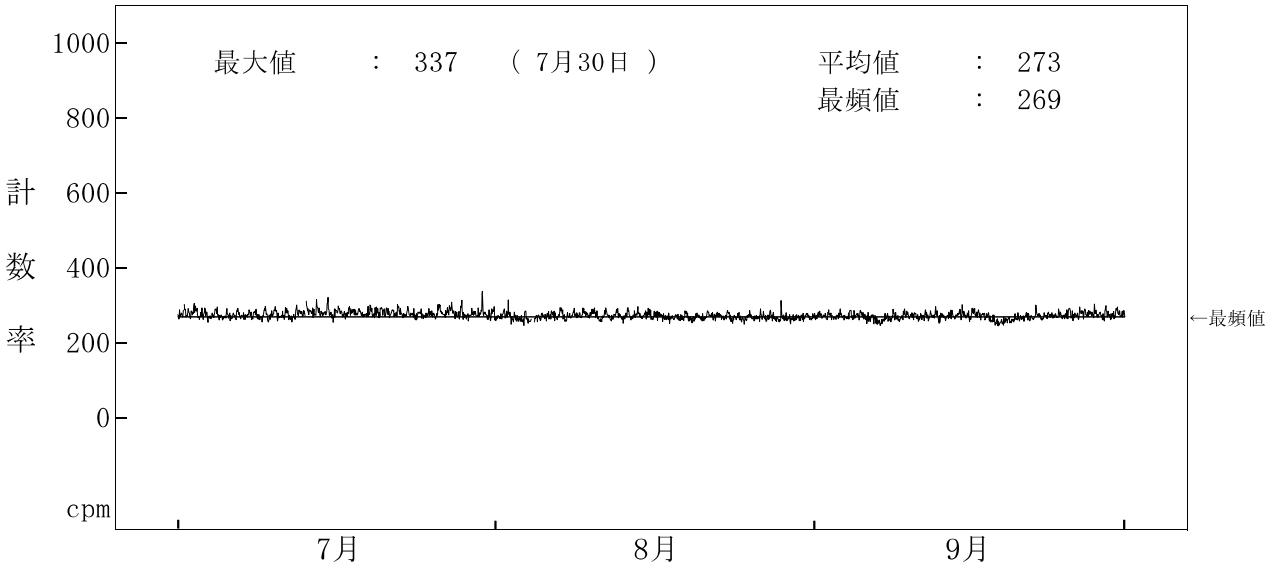
（注）９月４日及び９月１１日の欠測は、定期点検によるもの。



図－２－１１　NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果（前網局）

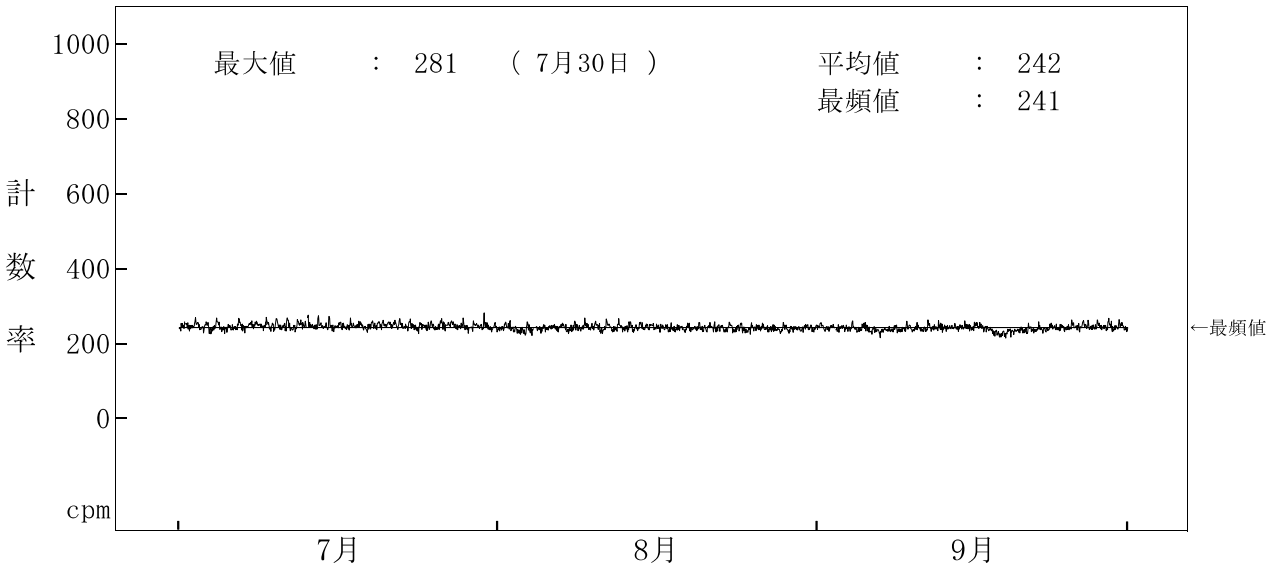
（注）９月１６日及び９月１７日の欠測は、定期点検によるもの。

令和8年度



図－２－１２　海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(１号機放水口モニター(Ａ))

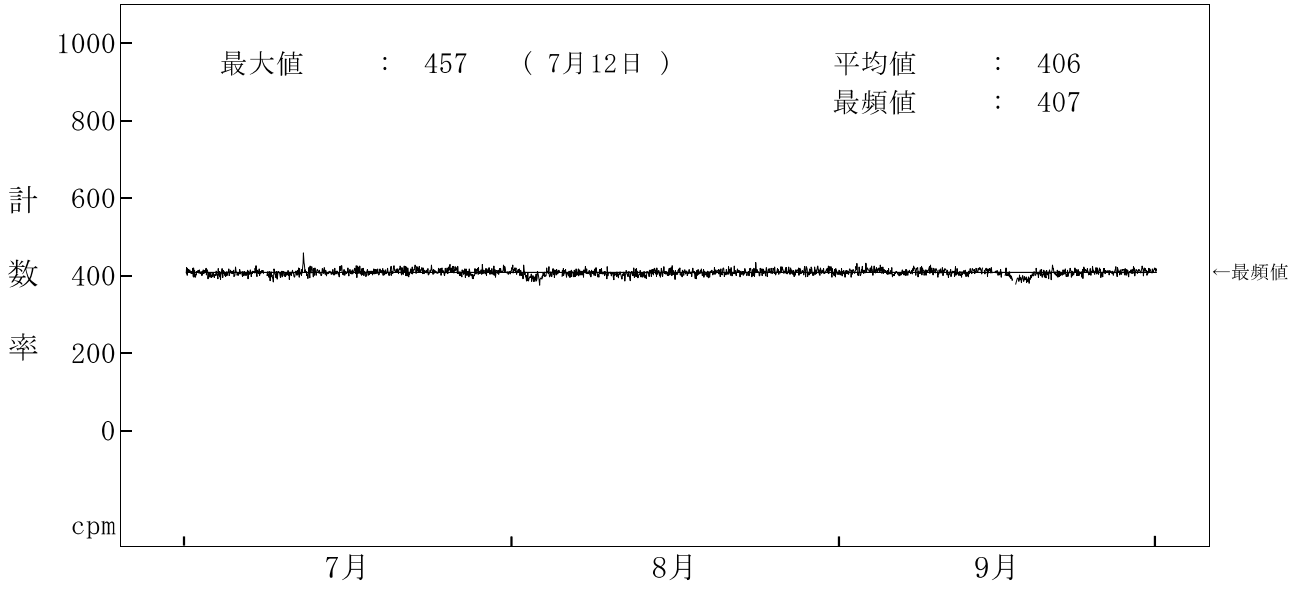
（注）７月１３日及び８月４日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－１３　海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(１号機放水口モニター(Ｂ))

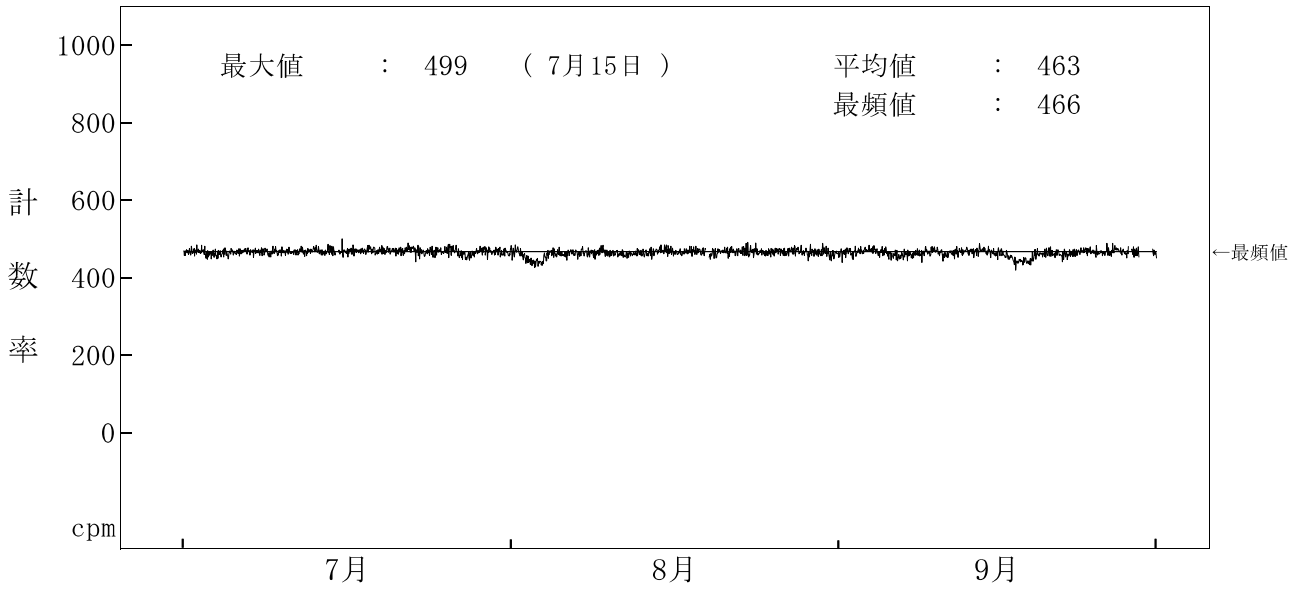
（注）７月１３日及び８月４日の欠測は、定期点検によるものである。

令和8年度



図－２－１４　海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(２号機放水口モニター)

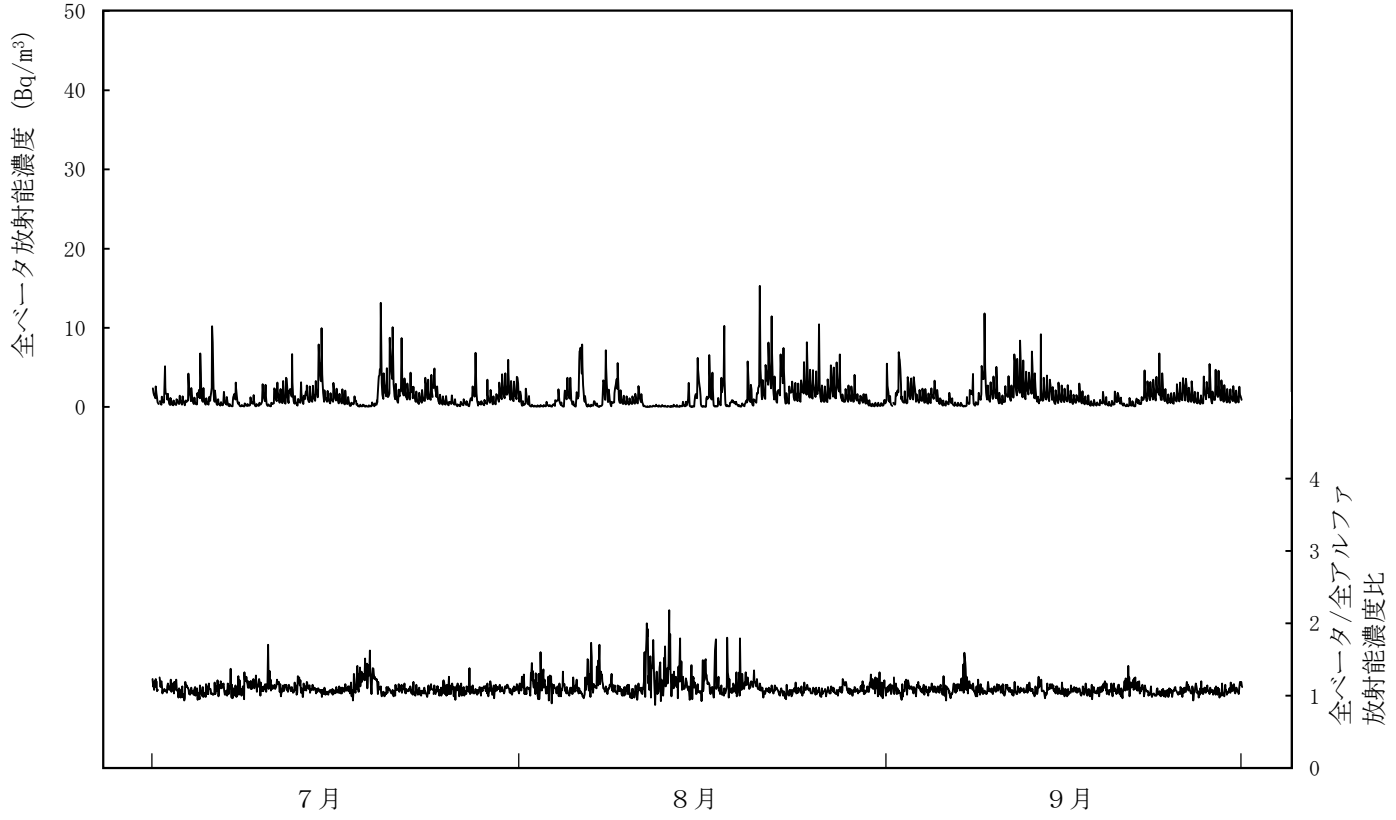
（注）７月８日、８月５日、９月１５日、９月１６日及び９月１７日の欠測は、定期点検によるものである。



図－２－１５　海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(３号機放水口モニター)

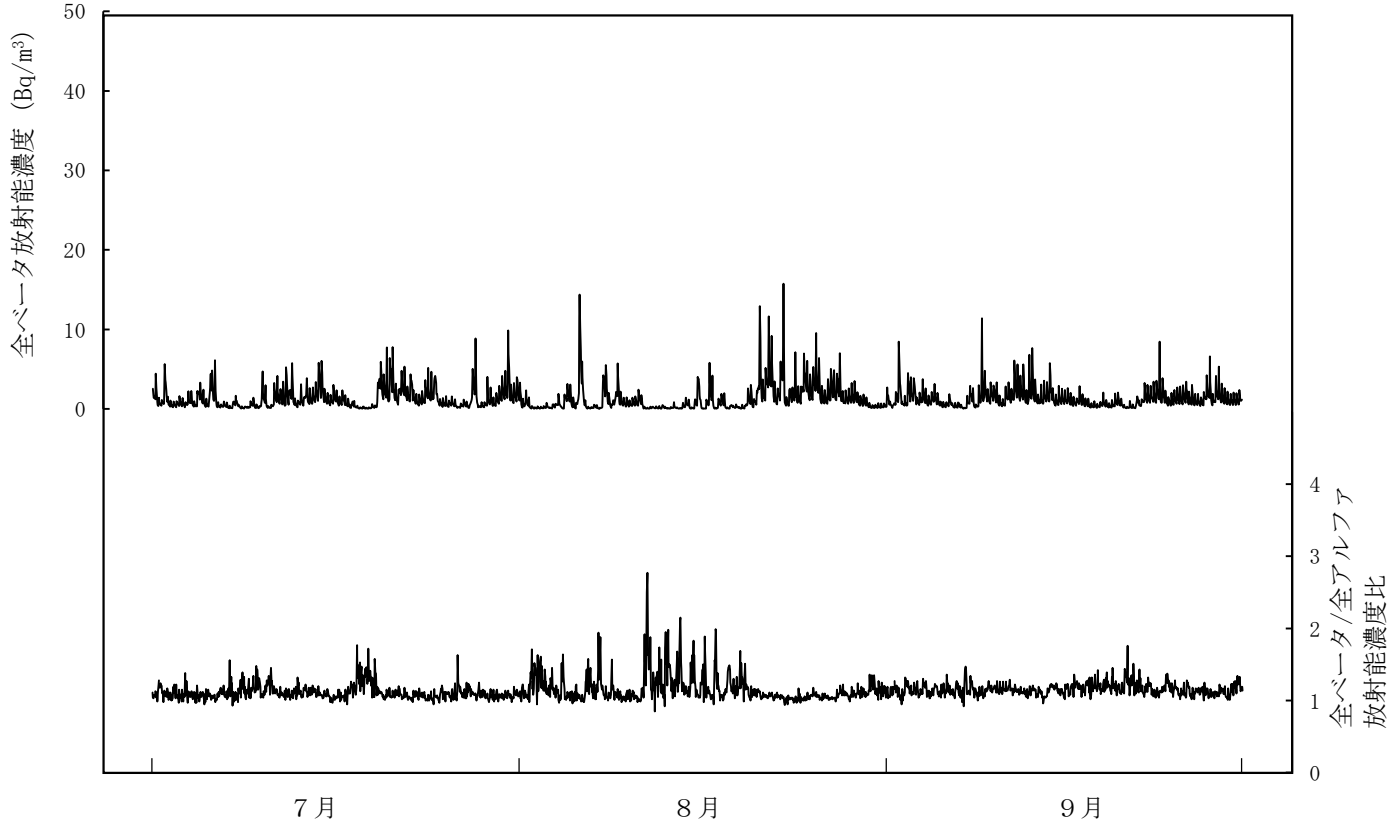
（注）７月１５日、８月１９日、９月２８日及び９月２９日～３０日の欠測は、定期点検によるものである。

令和8年度



図－２－１６　大気中の放射性物質の全ベータ放射能濃度及び
全ベータ／全アルファ放射能濃度比（飯子浜局）

（注）７月１日及び９月１日の欠測は、定期点検によるものである。
７月２４日の欠測は、臨時点検によるものである。



図－２－１７　大気中の放射性物質の全ベータ放射能濃度及び
全ベータ／全アルファ放射能濃度比（鮫浦局）

令和８年度

（２）周辺環境の保全の確認

空間ガンマ線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、女川原子力発電所の影響は認められなかった。

ア　電離箱検出器による空間ガンマ線量率

表－２－１に、モニタリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線量率の測定結果を示す。福島第一原発事故前から測定している局においては、同事故前の測定値の範囲内であった。

イ　放射性物質の降下量

表－２－２及び表－２－３に、降下物中の対象核種のうち、Mn（マンガン）-54、Co(コバルト)-58、Fe（鉄）-59、Co-60、Cs-134、Cs-137について分析した結果を示す。なお、本期間における欠測はなかった。

分析の結果、Cs-137が検出されたが、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図－２－１８に昭和６１年度以降のCs-137に係る月間降下量、図－２－１９に同事故後のCs-137に係る四半期間降下量、図－２－２０に同事故後のCs-137に係る月間降下量及び図－２－２１に同事故後のCs-134に係る月間降下量について、それぞれの推移を示す。

ウ　環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。なお、本期間における欠測はなかった。

表－２－４に迅速法による海水及びアラメのI(ヨウ素)-131の分析結果を示す。I-131は検出されなかった。

表－２－５に環境試料の核種分析結果の概要を示す。また、図－２－２２から図－２－３３には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度の推移を示す。

対象核種については、ヨモギ、松葉、アイナメ、キタムラサキウニ、海底土及びアラメの試料からCs-137が検出された。これらのうち松葉、アイナメ、キタムラサキウニ及びアラメについては同事故前における測定値の範囲内であった。ヨモギ及び海底土については、同事故前の測定値の範囲を超過していた。ただし、

同事故による影響が少なくなった平成２８年度以降の測定値の範囲内であった。なお、本項目では同事故の影響で高い測定値が確認された平成２３年度から平成２７年度までを除外し、平成２８年度以降の測定値と比較している。以上を踏まえ、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、同事故の影響によるものと考えられる。

また、Sr-90についてはヨモギの試料から検出されたが、ヨモギについては同事故前における測定値の範囲内であり、これまでの推移から同事故と過去の核実験の影響によるものと考えられる。

これら以外の対象核種については、いずれの試料からも検出されなかった。

表－２－１　空間ガンマ線量率測定結果（電離箱検出器による線量率）

種別	調査機関	局名	項目	7月	8月	9月	前年度までの測定値[*1] 最小値～最大値 上段：平成22年度以前の値[*2] 下段：平成23年度以降の値	単位
空間ガンマ線量率	宮城県	女川	平均値	68.3	68.0	68.0	53.7 ～ 103.3	nGy/h
			標準偏差	3.8	2.8	2.5		
			最大値	93.4	93.1	89.5	60.7 ～ 128.0	
			最小値	63.1	63.1	62.8		
		飯子浜[*3]	平均値	83.4	82.7	82.6	—	
			標準偏差	4.1	2.9	2.7		
			最大値	114.0	106.8	104.6	72.0 ～ 117.8	
			最小値	77.4	77.5	77.4		
		小屋取	平均値	83.4	82.9	82.7	67.0 ～ 124.3	
			標準偏差	3.4	2.7	2.5		
			最大値	105.5	105.0	101.6	77.0 ～ 160.3	
			最小値	77.2	77.0	76.8		
		寄磯	平均値	76.7	76.1	76.3	61.2 ～ 105.0	
			標準偏差	3.5	2.7	2.9		
			最大値	99.0	98.2	97.4	58.8 ～ 141.3	
			最小値	71.6	70.6	70.7		
		鮫浦[*3]	平均値	100.3	99.6	98.5	—	
			標準偏差	4.2	3.1	3.0		
			最大値	132.2	124.3	122.6	88.2 ～ 140.0	
			最小値	93.3	92.7	92.6		
		谷川[*3]	平均値	81.7	81.0	80.7	—	
			標準偏差	3.6	2.6	3.1		
			最大値	106.2	105.2	114.4	76.2 ～ 121.8	
			最小値	76.6	75.9	76.4		
		荻浜[*3]	平均値	89.2	88.5	88.1	—	
			標準偏差	3.6	2.4	2.8		
			最大値	115.5	108.8	117.7	83.7 ～ 127.7	
			最小値	84.4	83.9	84.0		
	東北電力	塚浜	平均値	77.5	76.7	76.6	68.2 ～ 126.3	
			標準偏差	4.1	2.9	2.8		
			最大値	104.6	105.9	98.3	73.1 ～ 158.4	
			最小値	73.5	72.8	72.8		
		寺間	平均値	72.3	71.7	71.7	61.4 ～ 121.0	
			標準偏差	3.8	3.2	2.8		
			最大値	93.5	105.1	92.3	67.8 ～ 139.3	
			最小値	67.8	67.7	67.6		
		江島	平均値	63.4	62.7	62.9	56.4 ～ 103.3	
			標準偏差	3.2	2.5	2.6		
			最大値	85.4	89.3	83.4	59.2 ～ 127.5	
			最小値	60.0	59.3	59.6		
		前網	平均値	81.5	81.0	80.7	69.7 ～ 126.3	
			標準偏差	3.4	2.5	2.6		
			最大値	107.2	103.7	100.2	77.4 ～ 165.2	
			最小値	76.8	77.2	77.4		

*1　小屋取は昭和５７年度から、女川及び寄磯局は昭和５８年度から、塚浜、寺間、江島及び前網局は昭和５９年度からの測定値の範囲を示す。

*2　福島第一原発事故前後で区別して過去の測定値の範囲を示す。なお、震災の影響により、平成２３年３月１１日から平成２３年４月～９月まで欠測が生じている(復旧時期は局により異なる)。

*3　震災で被災したモニタリングステーションを移転、再建し、平成３１年４月から測定を開始した。

令和8年度

（参考）広域モニタリングステーション[*1]における空間ガンマ線量率測定結果
（電離箱検出器による線量率）

種別	調査機関	局名	項目	7月	8月	9月	前年度までの測定値[*2] 最小値～最大値	単位
空間ガンマ線量率	宮城県	石巻 稲井	平均値	62.0	61.1	61.3	53.3 ～ 118.4	nGy/h
			標準偏差	3.8	2.2	2.4		
			最大値	86.7	85.0	83.3		
			最小値	56.7	58.3	58.3		
		雄勝	平均値	62.1	61.3	61.0	56.7 ～ 141.7	
			標準偏差	4.3	3.7	3.0		
			最大値	86.7	106.7	80.0		
			最小値	56.7	56.7	56.7		
		河南	平均値	59.5	58.6	58.5	51.7 ～ 143.4	
			標準偏差	4.6	2.6	2.6		
			最大値	95.0	88.3	81.7		
			最小値	55.0	53.3	55.0		
		河北	平均値	63.3	62.6	62.6	53.3 ～ 128.3	
			標準偏差	3.8	3.0	2.4		
			最大値	86.7	101.7	81.7		
			最小値	58.3	56.7	58.3		
		北上	平均値	73.7	73.0	72.2	66.7 ～ 141.7	
			標準偏差	3.9	3.3	2.5		
			最大値	100.0	106.7	88.3		
			最小値	68.3	68.3	68.3		
		鳴瀬	平均値	57.4	56.3	56.6	51.7 ～ 130.0	
			標準偏差	4.6	2.3	2.5		
			最大値	91.7	80.0	75.0		
			最小値	51.7	51.7	53.3		
		南郷	平均値	59.9	59.2	60.1	53.3 ～ 153.3	
			標準偏差	4.2	2.6	2.4		
			最大値	93.3	85.0	80.0		
			最小値	55.0	53.3	56.7		
		涌谷	平均値	58.2	57.6	57.8	51.7 ～ 146.7	
			標準偏差	3.8	3.0	2.3		
			最大値	83.3	95.0	75.0		
			最小値	53.3	53.3	53.3		
		津山	平均値	62.5	61.8	61.9	55.0 ～ 128.3	
			標準偏差	4.0	3.1	2.7		
			最大値	91.7	98.3	88.3		
			最小値	56.7	56.7	56.7		
		志津川	平均値	61.9	61.2	61.0	56.7 ～ 126.7	
			標準偏差	3.7	3.2	2.8		
			最大値	83.3	90.0	86.7		
			最小値	56.7	56.7	56.7		

＊1　広域モニタリングステーションとは、原子力規制委員会「原子力災害対策指針（平成２４年１０月３１日制定）」に示された「緊急防護措置を準備する区域（UPZ）」内に県が新たに設置したモニタリングステーションをいう。

＊2　平成２５年度からの測定値の範囲を示す。

令和8年度

表－２－２　月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果[*1]

核種	令和８年度第２四半期測定値[*2]		前年度までの測定値[*3,4]		単位
			（上段）平成２年度～平成２３年２月 （下段）平成２８年度～令和７年度	(参考) 福島第一原発事故後５年間の最大値[*5]	
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn- 54	9	ＮＤ	749 360	ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	Bq/㎡
Co- 58		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	
Fe- 59		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	
Co- 60		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	
Cs-134		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ～0.57	9329	
Cs-137		ＮＤ～0.27		ＮＤ～0.14 ＮＤ～6.93	9248	

*1　NDは検出下限値未満であることを示す。
*2　女川町浦宿浜(女川オフサイトセンター)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点（仙台市宮城野区幸町(環境放射線監視センター)）の測定値を除く。
*3　女川町浦宿浜(女川宿舎及び女川オフサイトセンター)、旧原子力センター（女川)、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を示し、対照地点（保健環境センター、旧原子力センター（仙台）及び仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。
*4　測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故による影響が少なくなった平成２８年度以降の測定値の範囲を示す。
*5　平成２３年３月～平成２７年度における最大値を示す。

表－２－３　四半期間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果[*1]

核種	令和８年度第２四半期測定値[*2]		前年度までの測定値[*3,4]		単位
			（上段）平成１１年度～平成２２年１２月 （下段）平成２８年度～令和７年度	(参考) 福島第一原発事故後５年間の最大値[*5]	
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn- 54	5	ＮＤ	231 200	ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	Bq/㎡
Co- 58		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	
Fe- 59		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	
Co- 60		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	
Cs-134		ＮＤ		ＮＤ ＮＤ～3.3	8615	
Cs-137		0.19～0.23		ＮＤ～0.20 ＮＤ～21.5	8438	

*1　NDは検出下限値未満であることを示す。
*2　飯子浜、鮫浦、谷川浜、塚浜及び付替県道における測定値を示す。
*3　飯子浜、鮫浦、谷川浜、尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値を示す。
*4　測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故による影響が少なくなった平成２８年度以降の測定値の範囲を示す。
*5　平成２３年１月～平成２７年度における最大値を示す。

表－２－４　迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中のＩ－１３１分析結果*1

試料名	採取海域	令和８年度 第２四半期測定値		前年度までの測定値*2 (上段) 平成１８年度～平成２２年度 (下段) 平成２８年度～令和７年度		(参考) 福島第一原発事故後５年間の最大値 *3	単位
		試料数	最小値～最大値	試料数	最小値 ～ 最大値		
海水	放水口付近	3	ＮＤ	31 120	ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	mBq/L
アラメ	放水口付近	1	ＮＤ	52 22	ＮＤ～0.30 ＮＤ	ＮＤ	Bq/kg 生
	前面海域	1	ＮＤ	24 22	ＮＤ～0.13 ＮＤ～0.10	1.34	
	周辺海域	1	ＮＤ	20 18	ＮＤ～0.13 ＮＤ～0.11	0.11	
	対照海域	3	ＮＤ	62 63	ＮＤ～0.47 ＮＤ～1.14	0.41	
エゾノネジモク	放水口付近			－ 14	－ ＮＤ	－	Bq/kg 生
	前面海域			－ 14	－ ＮＤ	－	
	周辺海域			－ 12	－ ＮＤ～0.17	－	
	対照海域			－ 38	－ ＮＤ～0.23	－	

*1　ＮＤは検出下限値未満であることを示す。
*2　海水については平成２０年度以降の測定値の範囲を、アラメについては平成１８年７月以降の測定値の範囲を、エゾノネジモクについては令和元年度以降の測定値の範囲を、福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故による影響が少なくなった平成２８年度以降の測定値の範囲を示す。
*3　平成２３年度～平成２７年度における最大値を示す。

表－２－５　環境試料の核種分析結果[*1]

対象物	試料名	核種	令和８年度第２四半期測定値		前年度までの測定値[*2] （上段）平成２年度～平成２２年度 （下段）平成２８年度～令和７年度	（参考） 福島第一原発 事故後５年間 の最大値[*3]	単位
			試料数	最小値　～　最大値	最小値　～　最大値		
農産物	精米	Sr-90			ＮＤ　～　0.0089 [*4] ＮＤ	ＮＤ	Bq/kg生
		Cs-137			ＮＤ　～　0.035 [*4] ＮＤ　～　0.112	0.214	
	大根 葉	Cs-137			ＮＤ　～　0.085 ＮＤ　～　0.165	1.11	Bq/kg生
	大根 根	Cs-137			ＮＤ　～　0.015 ＮＤ　～　0.023	0.588	Bq/kg生
陸水	水道原水（飲料水）	H-3	2	ＮＤ	ＮＤ　～　3200 ＮＤ　～　450	610	mBq/L
		Cs-137	3	ＮＤ	ＮＤ ＮＤ　～　8.5	282	
陸土	未耕土	Sr-90			1.3　～　1.6 [*5] 1.0　～　1.2	2.6	Bq/kg乾土
		Cs-137			ＮＤ　～　13.1 [*5] 18.5　～　317	310	
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	14	ＮＤ	ＮＤ ＮＤ　～　0.015	23.70	mBq/m^3
指標植物	ヨモギ	Sr-90	2	0.10　～　0.30	0.065　～　1.00 0.088　～　0.43	0.54	Bq/kg生
		Cs-137	2	0.46　～　0.68	ＮＤ　～　0.17 0.29　～　2.64	40.1	
	松葉	Sr-90			0.86　～　1.83 0.71　～　1.28	2.10	Bq/kg生
		Cs-137	1	0.157	ＮＤ　～　0.74 0.135　～　2.33	1476	
魚介類	アイナメ	Sr-90	1	ＮＤ	ＮＤ　～　0.011 ＮＤ	ＮＤ	Bq/kg生
		Cs-137	1	0.14	0.062　～　0.21 0.092　～　0.21	10.16	
	マガキ	Sr-90			ＮＤ ＮＤ	0.034	Bq/kg生
		Cs-137			ＮＤ　～　0.058 ＮＤ　～　0.10	1.13	
	マボヤ	Sr-90	1	ＮＤ	ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	Bq/kg生
		Cs-137	1	ＮＤ	ＮＤ　～　0.054 ＮＤ　～　0.53	0.74	
	エゾアワビ	Cs-137			ＮＤ　～　0.053 ＮＤ　～　0.082	0.22	Bq/kg生
	キタムラサキウニ	Cs-137	1	0.038	ＮＤ　～　0.063 [*6] 0.035　～　0.20	1.66	Bq/kg生
海藻	ワカメ	Sr-90			ＮＤ　～　0.081 ＮＤ　～　0.062	0.056	Bq/kg生
		Cs-137			ＮＤ　～　0.080 ＮＤ　～　0.15	2.39	
海水	表層水	H-3	2	ＮＤ	ＮＤ　～　670 ＮＤ	ＮＤ	mBq/L
		Sr-90			ＮＤ　～　2.9 ＮＤ　～　2.8	3.6	
		Cs-137	2	ＮＤ	ＮＤ　～　4.1 ＮＤ　～　4.2	98	
海底土	表層土（砂）	Sr-90			ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	Bq/kg乾土
		Cs-137	2	ＮＤ　～　5.6	ＮＤ　～　2.6 ＮＤ　～　47.2	299	
指標海産物	アラメ	Sr-90	2	ＮＤ	ＮＤ　～　0.073 ＮＤ　～　0.046	0.042	Bq/kg生
		Cs-137	3	ＮＤ　～　0.074	ＮＤ　～　0.16 ＮＤ　～　0.16	12.76	
	エゾノネジモク	Sr-90			— ＮＤ　～　0.061 [*7]	—	Bq/kg生
		Cs-137			— ＮＤ　～　0.13 [*7]	—	
	ムラサキイガイ	Sr-90	1	ＮＤ	ＮＤ ＮＤ	ＮＤ	Bq/kg生
		Cs-137	1	ＮＤ	ＮＤ　～　0.096 ＮＤ　～　0.122	0.54	

*1　Cs-137、Sr-90及びH-3の測定値を示し、対照地点で採取された試料並びに迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモクの測定値を除く。なお、NDは検出下限値未満であることを示す。

*2　測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故による影響が少なくなった平成２８年度以降の測定値の範囲を示す。

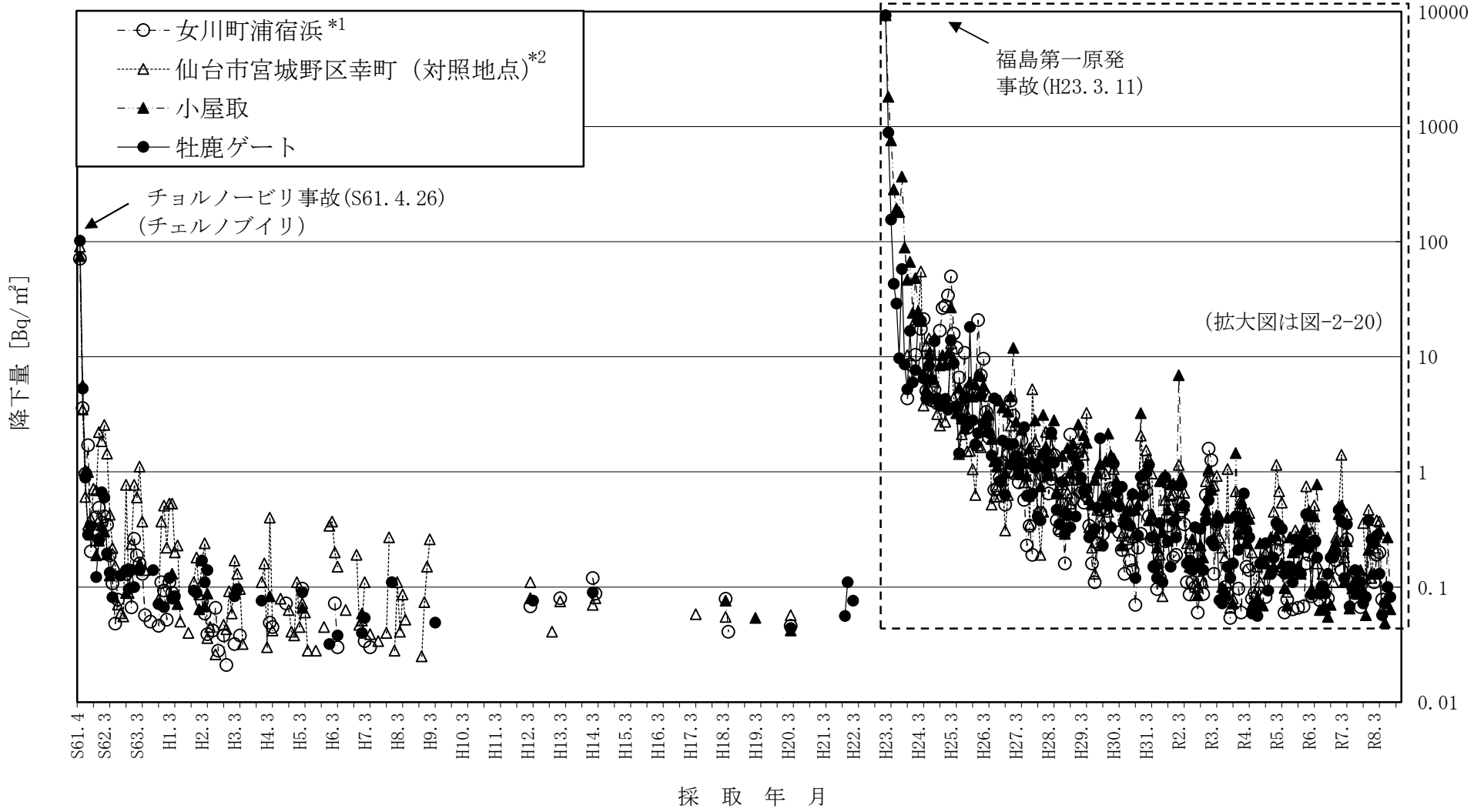
*3　平成２３年度～平成２７年度における測定値の最大値を示す。

*4　平成１１年度の測定基本計画変更によって測定地点が谷川浜のみとされたため、精米の平成２年度～平成２２年度については谷川浜における測定値の範囲を示す。

*5　平成２１年度の測定実施計画変更によって測定地点が変更されたため、平成２１年度～平成２２年度における測定値の範囲を示す。

*6　平成１１年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、平成１１年度～平成２２年度における測定値の範囲を示す。

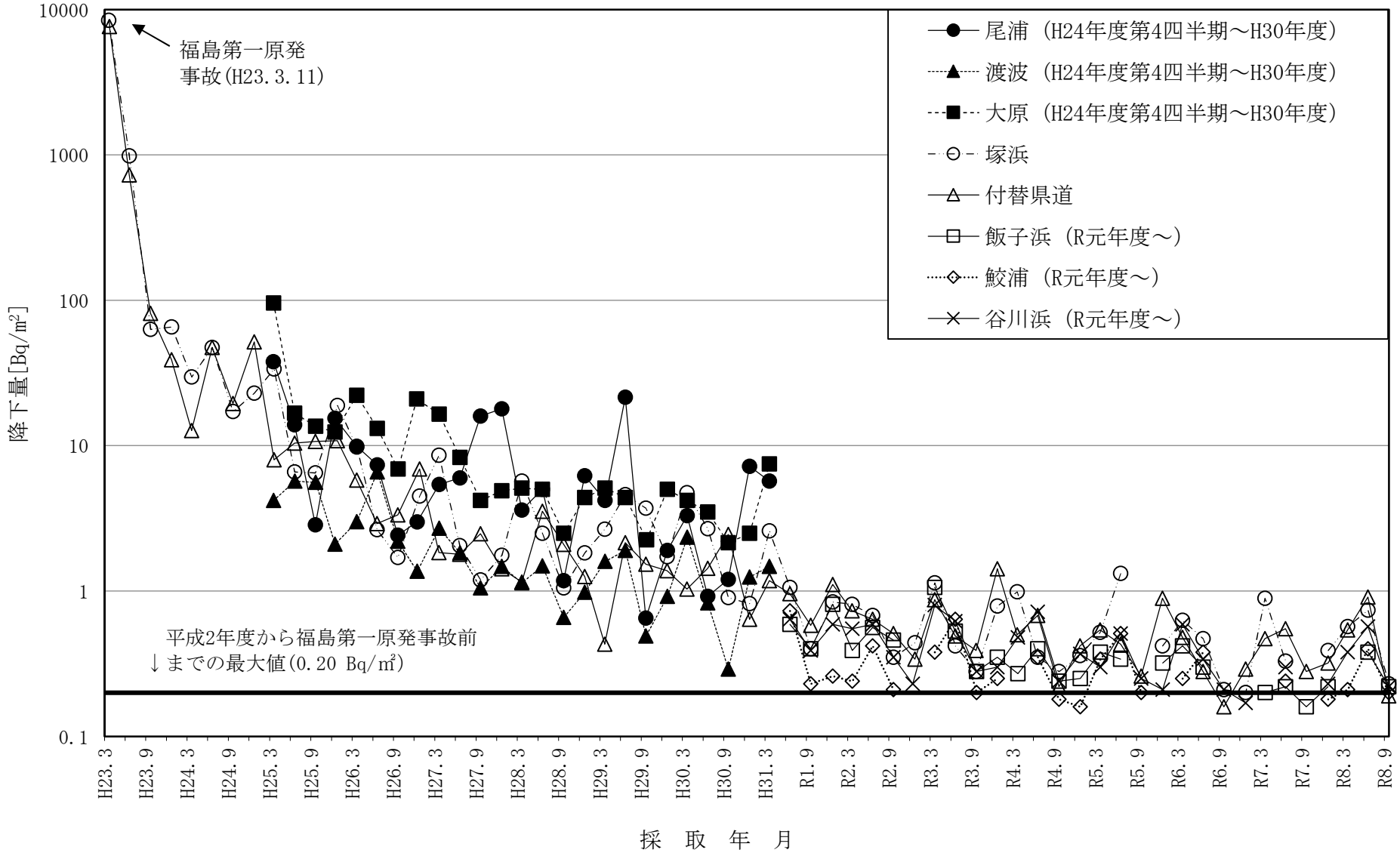
*7　令和元年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、令和元年度以降における測定値の範囲を示す。



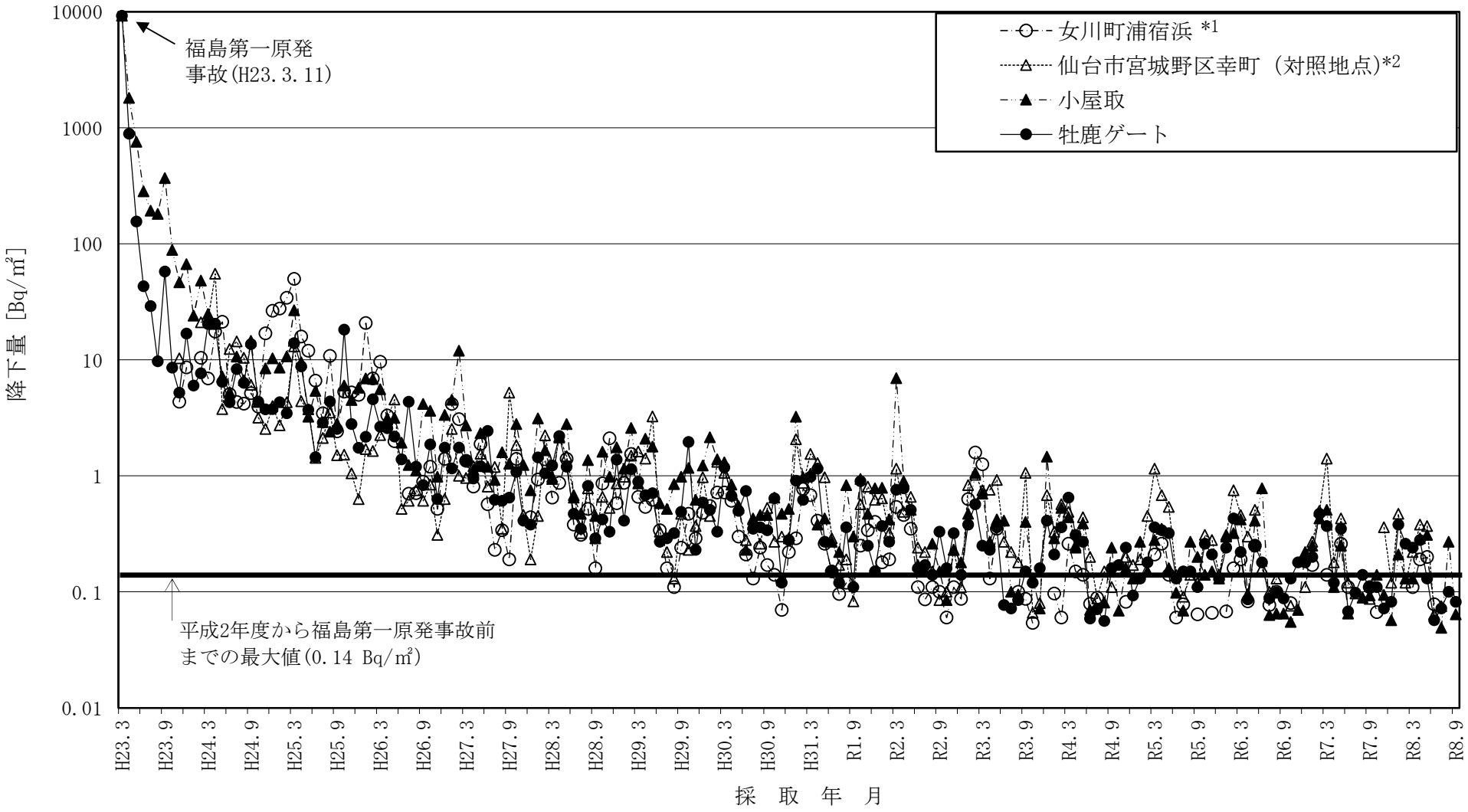
図－２－１８ Cs-137の月間降下量の推移

*1　平成２３年８月１０日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。
　また、令和３年４月１日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2　平成２４年８月３０日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成２７年３月３０日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。なお、平成９年４月１日に、仙台市宮城野区幸町の保健環境センターにおける採取場所を建物屋上から前庭地上へ変更した。



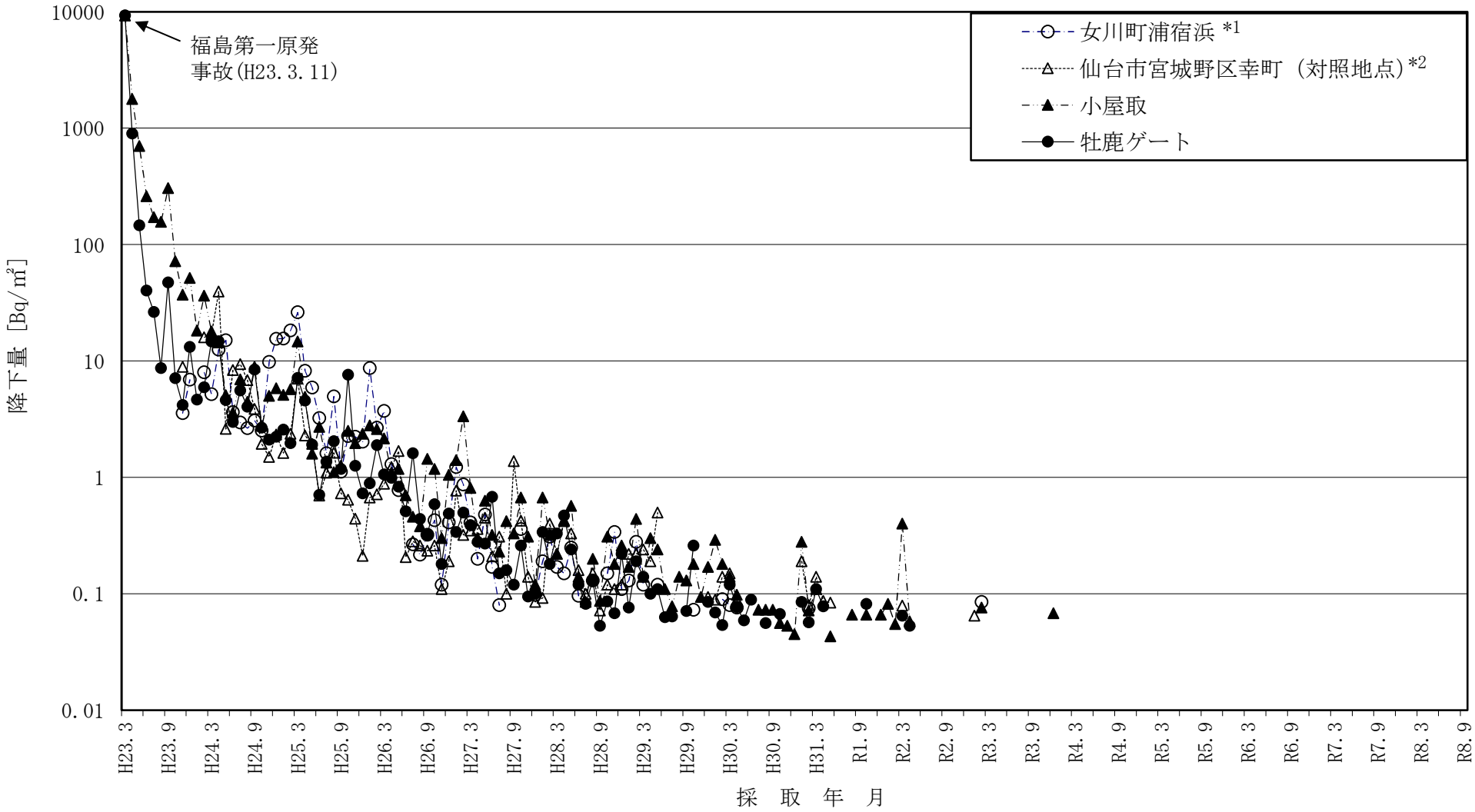
図－２－１９ Cs-137の四半期間降下量の推移



図－２－２０ 福島第一原発事故後のCs-137の月間降下量の推移

*1　平成２３年８月１０日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。
　また、令和３年４月１日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

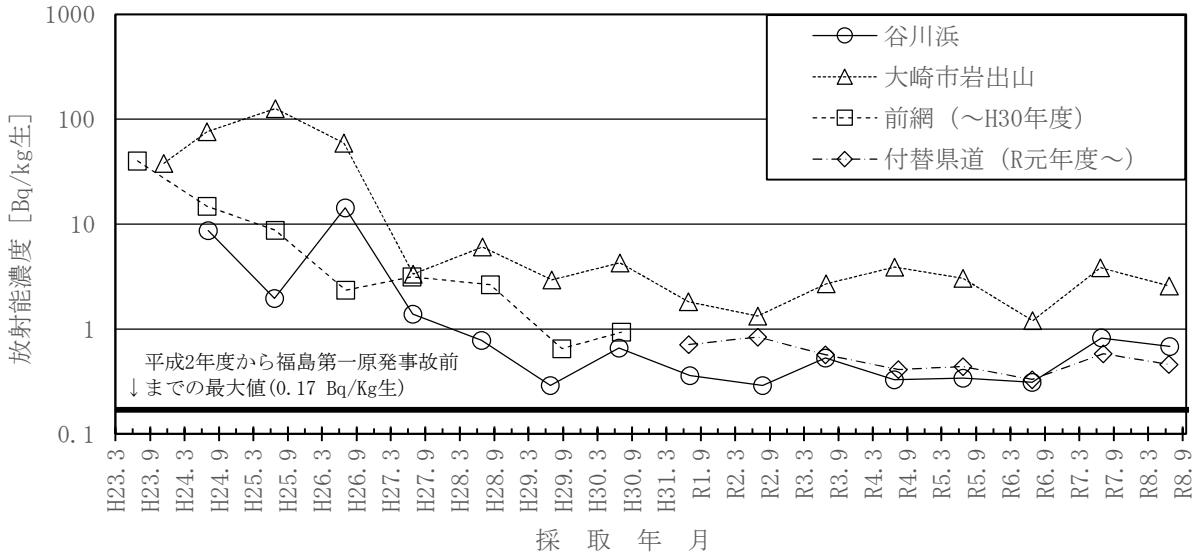
*2　平成２４年８月３０日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成２７年３月３０日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。



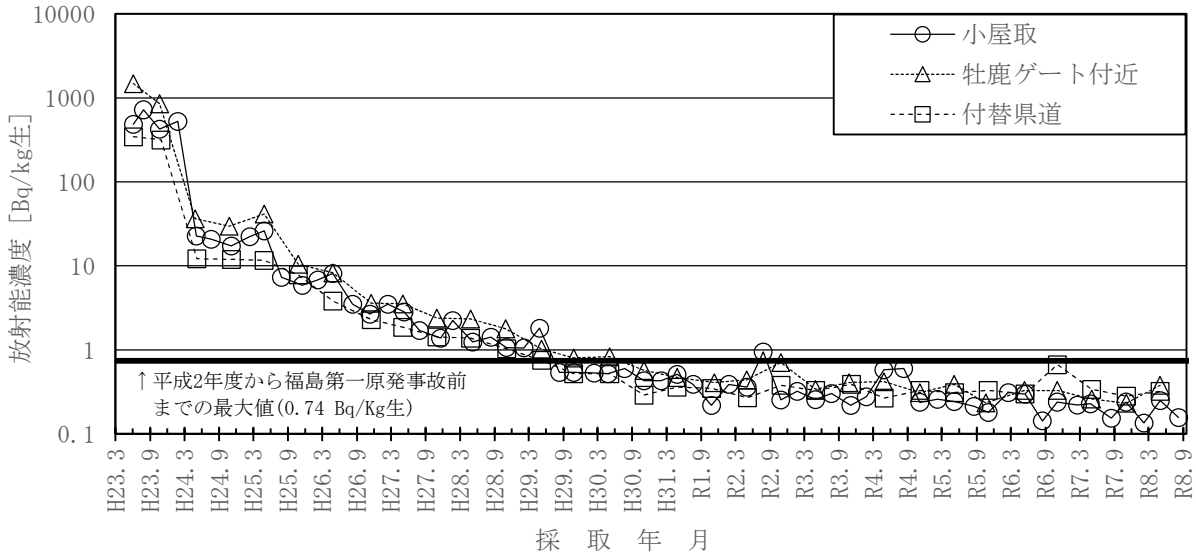
図－２－２１ 福島第一原発事故後のCs-134の月間降下量の推移

*1　平成２３年８月１０日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。
　　また、令和３年４月１日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

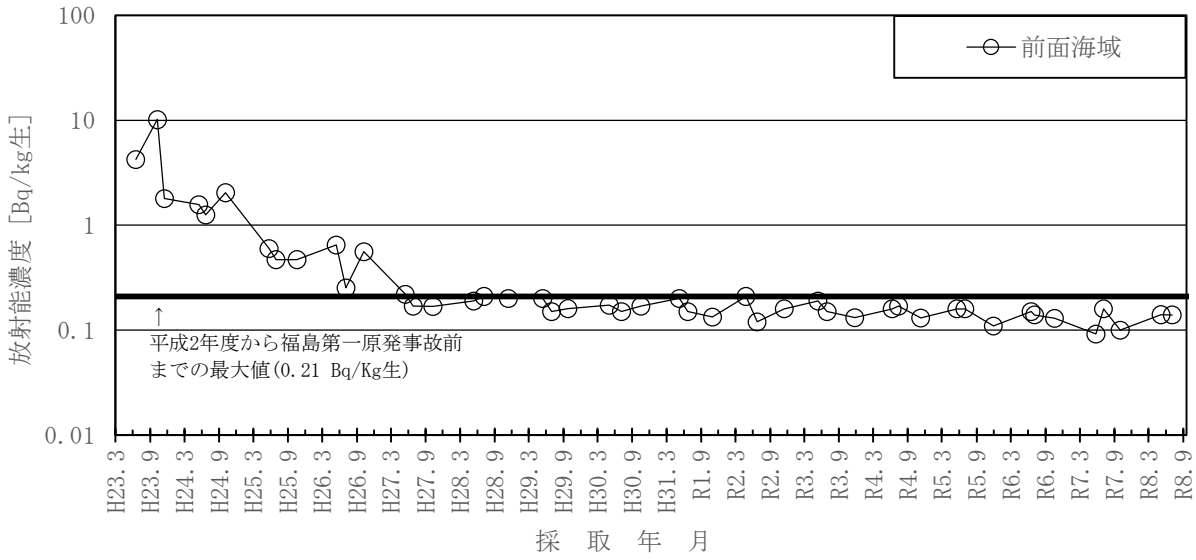
*2　平成２４年８月３０日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成２７年３月３０日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。



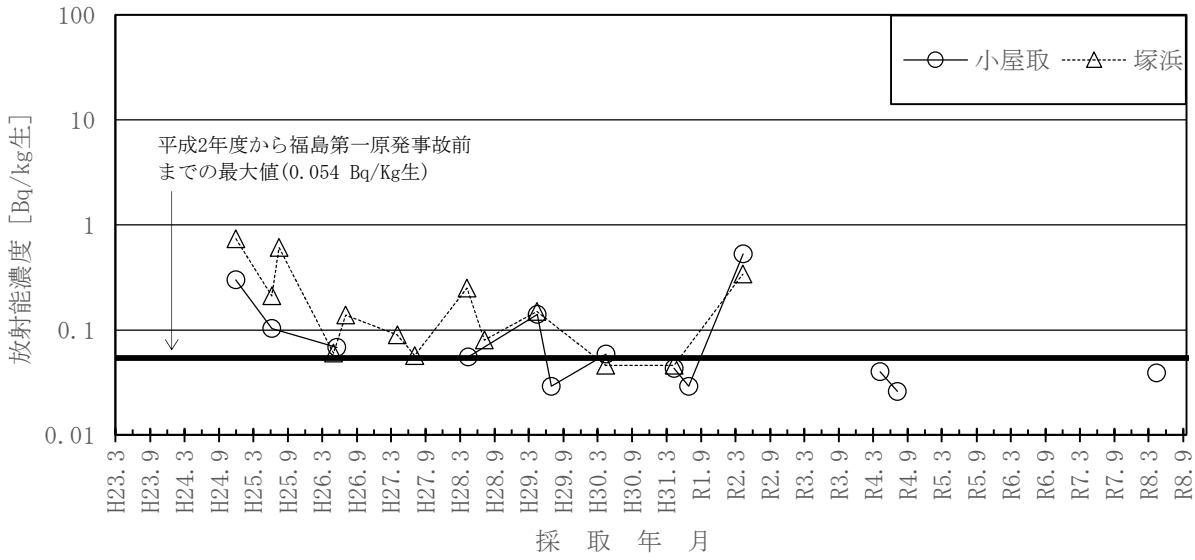
図－２－２２　ヨモギのCs-137濃度の推移



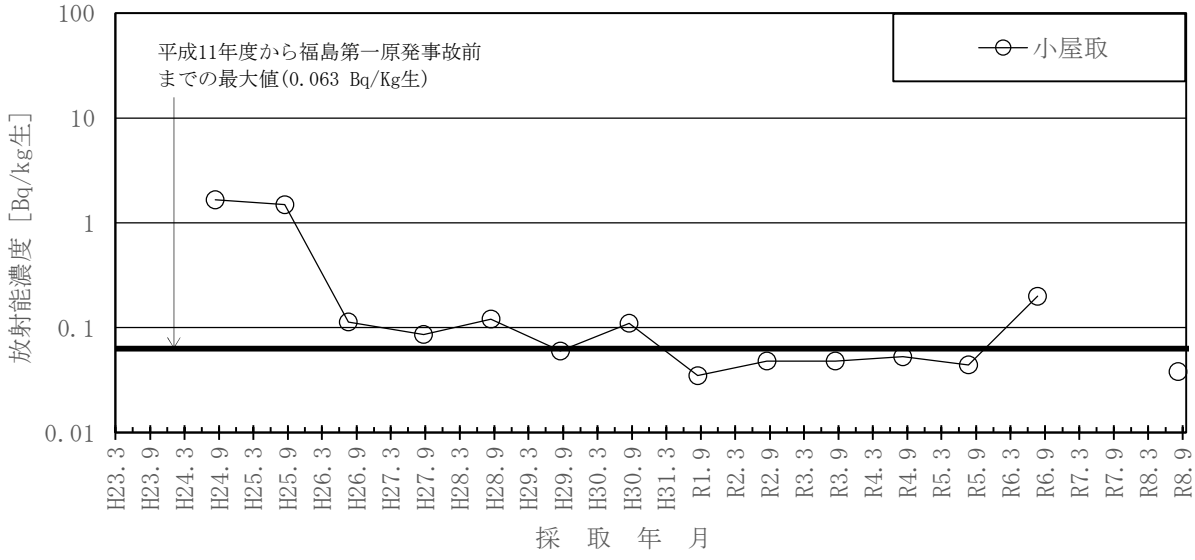
図－２－２３　松葉のCs-137濃度の推移



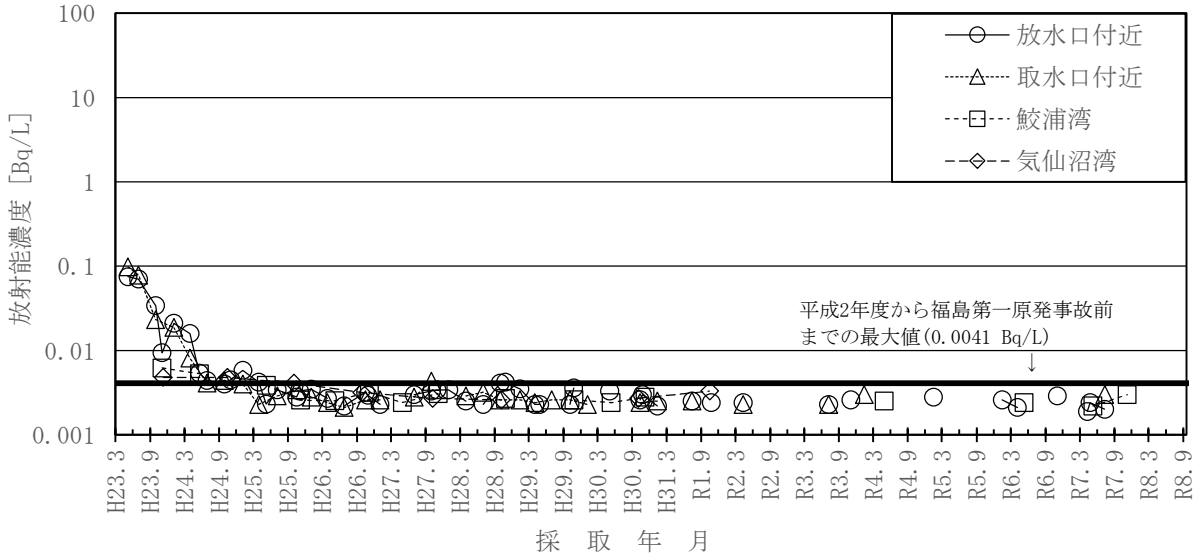
図－２－２４　アイナメのCs-137濃度の推移



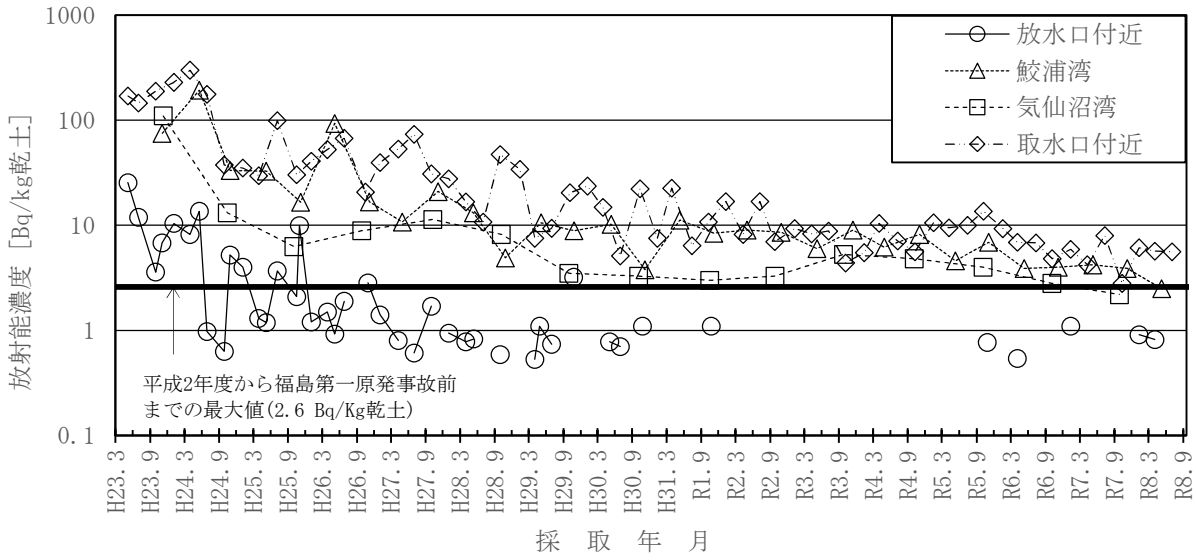
図－２－２５　マボヤのCs-137濃度の推移



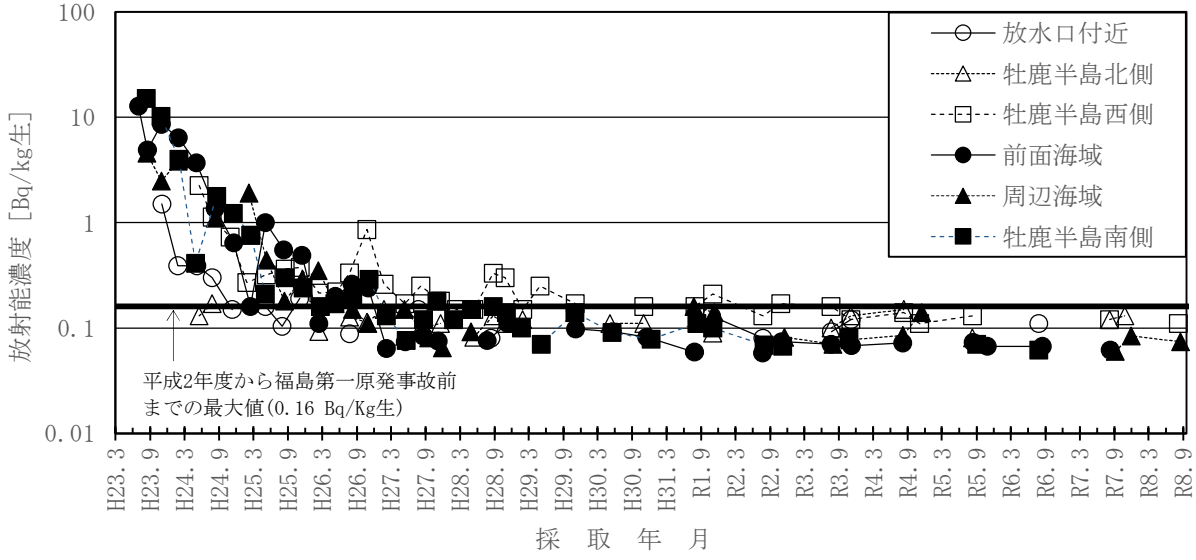
図－２－２６　キタムラサキウニのCs-137濃度の推移



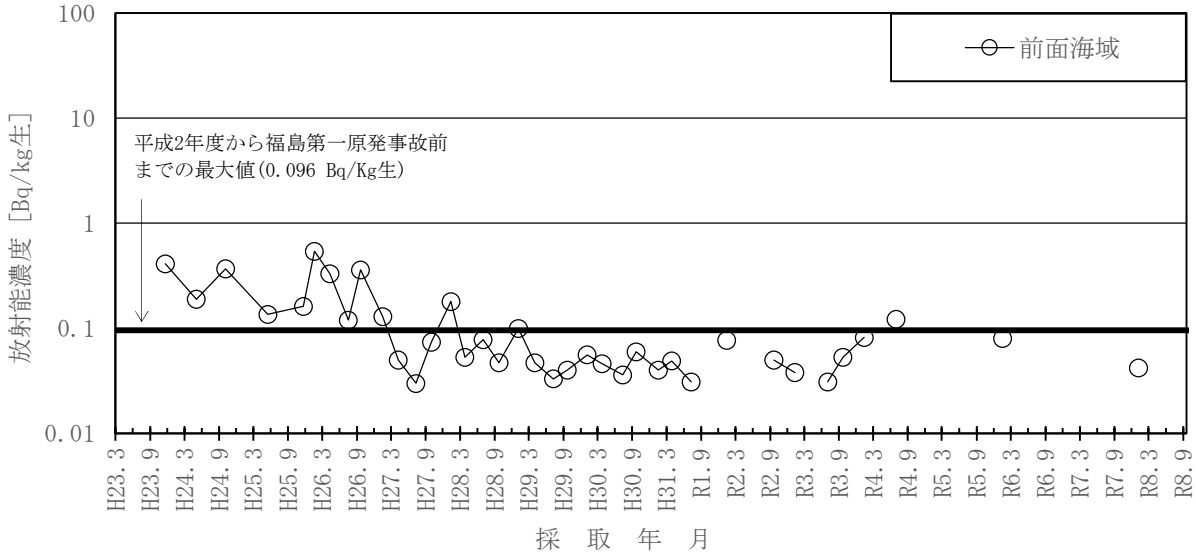
図－２－２７　海水のCs-137濃度の推移



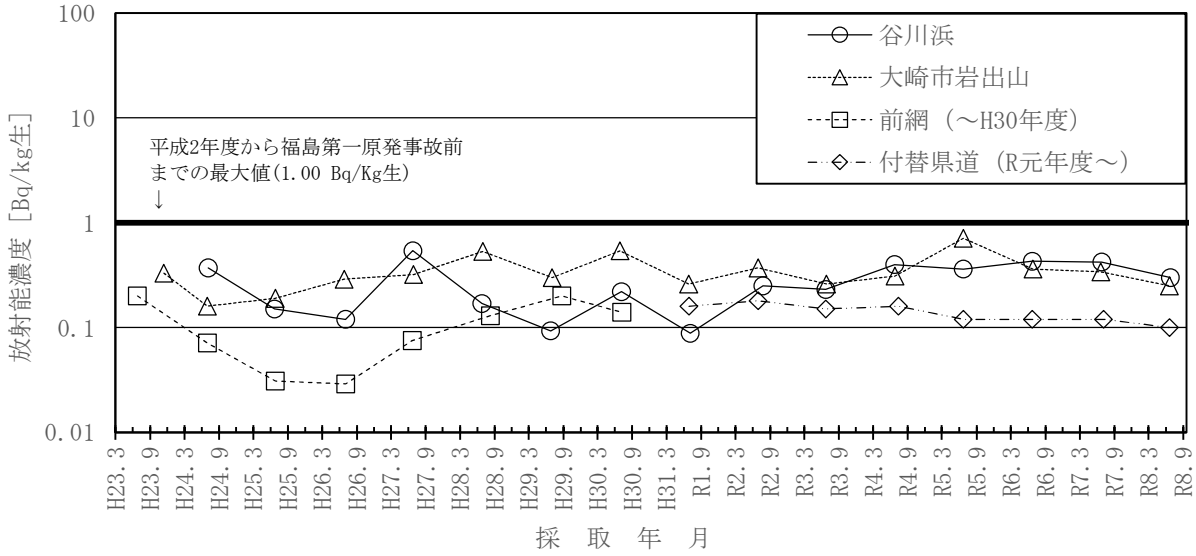
図－２－２８　海底土のCs-137濃度の推移



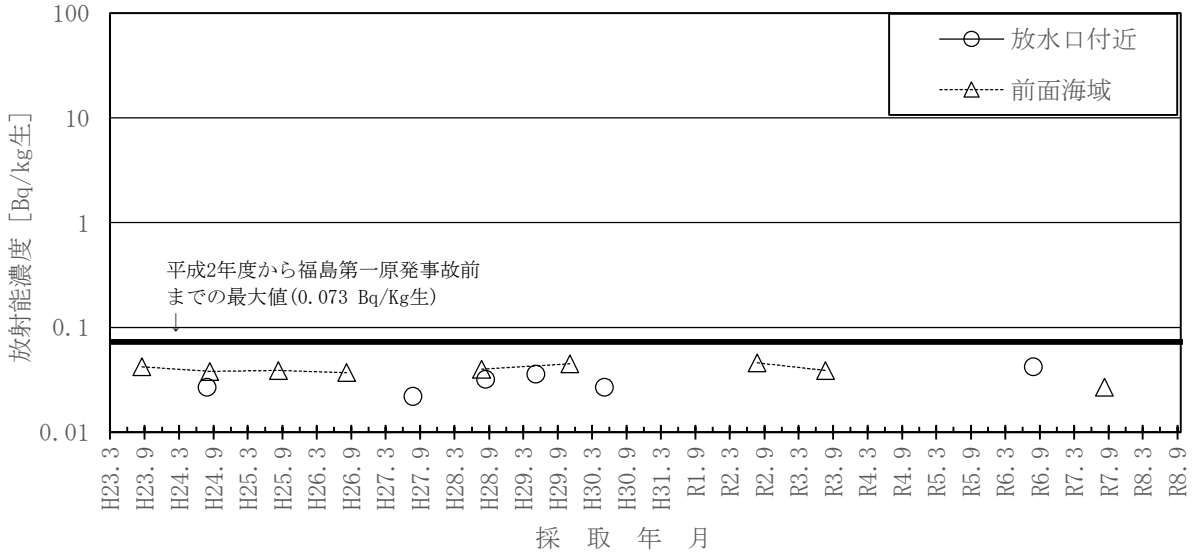
図－２－２９　アラメのCs-137濃度の推移



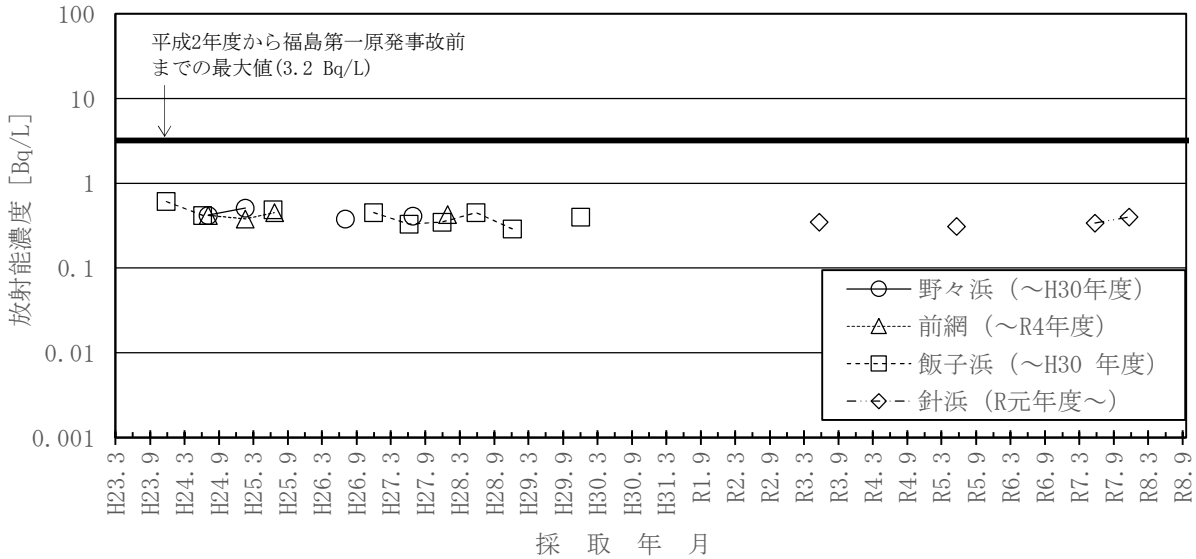
図－２－３０　ムラサキイガイのCs-137濃度の推移



図－２－３１　ヨモギのSr-90濃度の推移



図－２－３２　アラメのSr-90濃度の推移



図－２－３３　陸水のH-3濃度の推移

＊　令和元年度以降、採取地点を野々浜から女川浜に変更している。
　　また、令和5年度以降、採取地点を前網から泊浜に変更している。